教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 附属総合ミュージアム　　資格： 特任教授（非常勤）　　氏名： 横川　公子

研究分野	研究内容のキーワード
文化史（日本）・地域研究・生活美学・意匠学	服装文化、生活文化、物質文化、女性文化
学位	最終学歴
家政学修士,家政学士	奈良女子大学大学院 家政学研究科 被服学専攻 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.副査として大学院前期課程修士論文の指導・査読・評価など	2024年6月1日副査として指導2025年2月12日	副査として生活環境学研究科生活環境学専攻・渡邊恵の研究環境を整備するとともに、文献紹介及び解読とレポートの検討、修士論文の作成にともなう査読提出を支援。完成した修士論文の査読、公聴会における質問・討論をして評価し、修士論文完成を支援した。
2.大学院博士後期課程副査として博士論文指導	2022年4月1日副査として指導2022年6月2日	生活環境学研究科生活環境学専攻・泊里涼子の博士論文「銘木を通した木の文化に関する考察」に関する関連文献・事項の紹介と論文完成に至るまでの査読指導を行ない、完成された博士請求論文の査読・公聴会質疑及び評価を担当した。
3.大学院後期課程博士の学会発表指導	2013年7月21日	意匠学会第55回大会にて、池田仁美による「メディアに見るシンガーミシン裁縫女学院とその周辺」の口頭発表の指導
2 作成した教科書、教材		
1.生活文化演習Ⅱ資料集	2010年09月	
2.着装論資料集	2010年04月	
3.生活文化演習Ⅰ資料集	2010年04月	
4.生活文化演習Ⅱ資料集	2008年09月	
5.生活文化演習Ⅱ資料集	2008年09月	
6.着装論資料集	2008年04月	
7.生活文化演習Ⅰ資料集	2008年04月	
8.着装論資料集	2008年04月	
9.生活文化演習Ⅰ資料集	2008年04月	
10.能勢調査報告書―インタビュー農家の暮らし―	2008年03月	大学院修士課程「生活文化情報学特別演習」によるフィールド演習の実践を、大阪府豊能郡能勢町におけるインタビュー調査「近代化とくらしの再発見―わたしたちが見つける地域の歴史―」の一環としての報告書を作成。
11.初期演習企画報告書　ミュージアムボックス「私のこの一品」	2008年01月	ミュージアムボックスは、調査･研究･資料（自然･歴史･民俗など）の収集･展示の方法を踏まえながら、自分の考えや関心を社会に投げ負ける方法である。総合的な知的実践として、初期演習で取り上げた。
12.食玩展―象徴としての生活文化をあやつるもの―	2007年07月	武庫川女子大学資料館図録として、発行する。食玩とは何か、食玩の系譜、食玩の色彩と素材、食玩の箱の中身と容器、食玩の形と食感などについて、記述･解説する。
13.繊維製品リサイクルモデル研究会公開研究会報告書	2006年12月	2006年7月1日に、武庫川女子大学生活環境学科Rifmo研究会による公開研究会での発表と討論を収録した。研究会の趣旨や研究会の実施状況について収録する。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1.武庫川女子大学附属総合ミュージアム2024年度秋季展覧会開催	2024年10月2日～12月4日	武庫川女子大学附属総合ミュージアム2024年度秋季展覧会「女子学生は何を学んだのか―教育標本資料に見る女子高等教育の黎明―」を監修・開催する
2.武庫川女子大学附属総合ミュージアム2024年度秋季展覧会図録	2024年10月2日発行	武庫川女子大学附属総合ミュージアム2024年度秋季展覧会図録「女子学生は何を学んだのか―教育標本資料にみる女子高等教育の黎明―」を編集・共同執筆・発行
3.武庫川女子大学附属総合ミュージアム2021年度秋春	2024年3月31日発行	武庫川女子大学附属総合ミュージアム2021年度秋春展

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
展覧会図録		覧会図録「zu Hause 自宅と承認」の執筆分担
4.武庫川女子大学附属総合ミュージアム2023年度秋季展覧会	2023年10月4日～12月6日	武庫川女子大学附属総合ミュージアム2023年度秋季展覧会「近代のきものがみた夢」の監修・開催
5.武庫川女子大学附属総合ミュージアム2023年度秋季展覧会図録	2023年10月4日発行	武庫川女子大学附属総合ミュージアム2023年度秋季展覧会図録「近代のきものがみた夢」の編集・執筆・発行
6.武庫川女子大学附属総合ミュージアム2022年度春季展覧会	2023年5月31日～7月12日	武庫川女子大学附属総合ミュージアム2022年度春季展覧会「モノの棲み家、ヒトの棲み家ー中田静さんの「自宅」より」の共催
7.武庫川女子大学附属総合ミュージアム2022年度秋季展覧会開催	2022年10月5日～2022年11月11日	武庫川女子大学附属総合ミュージアム2022年度秋季展覧会図録「粋を尽くす　近現代のきもの」を編集・共同執筆・発行
8.武庫川女子大学附属総合ミュージアム2022年度秋季展覧会図録	2022年10月5日発行	武庫川女子大学附属総合ミュージアム2022年度秋季展覧会図録「粋を行尽くす　近現代のきもの」全3頁を編集・共同執筆・発行
9.武庫川女子大学附属総合ミュージアム2021年度秋季展覧会図録	2021年10月20日発行	武庫川女子大学附属総合ミュージアム2021年度秋季展覧会図録「王朝文化へのまなざしー戦前期女子教育におけるー」全63頁、編集・共同執筆・発行
10.武庫川女子大学附属総合ミュージアム2021年度秋季展覧会	2021年10月20日から2021年12月8日	武庫川女子大学附属総合ミュージアム2021年度秋季展「王朝文化（ロイヤリティ）へのまなざしー戦前期女子教育におけるー」を監修・開催
11.武庫川女子大学附属総合ミュージアム2019年度登録有形民俗文化財記念展「きものに見るモダン生活の軌跡」	2020年2月28日から2020年3月	「武庫川女子大学近代衣生活資料」の登録有形民俗文化財への登録を記念した展覧会を企画し、展示構想全般にわたる監修と展示解説、図録編集と執筆（共同）
12.シンポジウム「きもの意匠の近代化」	2019年10月23日	武庫川女子大学附属設置準備室2019年度秋季展企画の一環として、シンポジウム（文化庁支援事業）を企画・開催し、コメンテーターとして登壇する。
13.シンポジウム 大大阪モダニズム再考「塩野家コレクションと船場の美意識」に登壇	2019年10月5日	かんさい・大学ミュージアム連携プロジェクト「ゴージャスとモダニズム―船場の美意識探訪、塩野家コレクションとその周辺―」の一環として、大阪大学総合研究博物館主催のシンポジウムに、パネリストとして塩野家コレクションに見る美意識について報告。ディスカッションに参加する。
14.かんさい・大学ミュージアム連携プロジェクトミニ展示「ゴージャスとモダニズムー船場の美意識探訪、塩野家コレクションとその周辺ー」	2019年9月24日～2019年10月18日	かんさい・大学ミュージアム連携企画の一つとして、大阪大学総合博物館と武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室が連携して行ったミニ展示。テーマの設定から展示まで全体にわたる決定と監修。
15.武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室2019年度秋季展覧会「ハレの日のきもの―近代の裾文様―」	2019年9月18日～2019年11月20日	武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室所蔵の着物資料のうちから、裾文様のハレ着特集による展示。テーマ、展示構想の決定および監修。展示解説の担当。
16.大阪大谷大学博物館講座「礼装の継承」	2019年9月2日	かんさい・大学ミュージアム連携企画「衣と生活 Kimono and Life」の一環として、大阪大谷大学で開催された博物館講座「礼装の継承」の講師を担当する。
17.大阪くらしの今昔館主催展覧会r大大阪時代に咲いたモダンきもの・・・・	2019年8月	大阪くらしの今昔館主催による展覧会「代位大阪時代に咲いたレトロモダンは着物たち～北前船船主大家家のファッションの今昔館～」の一環としての講演会講師。図録執筆分担。
18.大阪大谷大学博物館講座「近代の礼装きもの」	2019年5月11日	大阪大谷大学博物館講座で「近代の礼装きもの」と題して講演する。
19.武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室2019年度春季展覧会「描かれたキャンパス―武庫川学院の景観―」	2019年4月3日～2019年5月29日	武庫川学院のキャンパスを描いた絵画作品（オリジナル）を取り上げた。教職員・学生生徒ほか、関係者のそれぞれの思いを表象する作品。学院の景観を留めるポスターや雑誌の表紙等も参照した。展示の企画、監修を担当。目録の編集。
20.シンポジウム「なぜ普通のモノをしらべるのか」	2018年11月28日	武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室2018年度秋季展「粗品？粗品！－時代の空気感を映すー」企画として実施。中田家コレクションに集積されたモノの悉皆調査を視野にして、普通のモノを調べる意味について、モノ研究の先端的専門家を集め討論した。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		企画・開催、および総合司会とコメンテーターとして参画する。
21.武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室2018年度秋季展覧会「粗品？粗品！－時代の空気感を映す―」	2018年10月17日～2018年12月5日	武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室所蔵の中田家コレクションから、戦時中から現代までの粗品を取り上げ展示する。企画・テーマ、展示構想の決定と展示全体の監修、展示解説を担当。関連シンポジウムの企画と開催など。
22.武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室2017年度秋季展覧会「近現代のきものと暮らし―技術革新の成果と新しい担い手の成立―」	2017年10月18日～2017年11月24日	武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室所蔵の着物資料の特徴として近代化の成果を技術的側面と人的社会的側面から提案した。展示の企画と展示構想の提案、展示の全体的監修・展示解説、展示に関する講座を担当する。
23.武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室2016年度秋季展覧会「贈答品の中の食品―中田家コレクションが語るもの―」	2016年11月16日～2016年11月30日	武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室所蔵の中田家コレクションに含まれる食品に注目。昭和時代の暮らしの現場がほぼそのまま残されたコレクションの食品からは、往時の生活が浮かび上がってくる。贈答品の食品427店で構成される目録を発行している。
24.武庫川女子大学 生活文化資料特別展「大村しげ―台所からの発信―」	2015年1月26日～2015年3月17日	国立民族学博物館の特別協力によって、本学生活美学研究所との共催により開催された。明治末から平成11年までのほぼ100年間、ちょうど20世紀の京都の町家暮らしを留める生活財を展示。文筆家・料理研究家としての大村しげの暮らしの表情を再現した。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.女子学生は何を学んだのか―教育標本資料に見る女子高等教育の黎明―	共	2024年10月3日発行	武庫川女子大学附属総合ミュージアム2024年度秋季展図録	デジタル化のない時代の多岐に亙る教育標本を採りあげ、その内容分析とともに背景となる亜幼な関係事項の発掘によって、女子学生が何を学なんだのについ考察する。全1頁、編共著。百科全書がひらいた日本近代と黎明期女子高等教育における教育標本（4-7）を執筆。
2.モノの棲み家、ヒトの棲み家―中田静さんの「自宅」より	共	2024年3月31日発行	武庫川女子大学附属総合ミュージアム2023年度春季展図録 同、生活美学研究所共催	2009年より附属総合ミュージアムで進めてきた「中田家資料」の調査研究の成果を活かして、中田静という女性の人生を炙り出すとともに我々自身の「棲み家」について考えるきっかけとした。筆者は「仏壇の中身から見えてくること」(139-145)を分担執筆した。
3.近代のきものがみた夢	共	2023年10月4日発行	2023年度武庫川女子大学附属総合ミュージアム秋季展図録	武庫川女子大学附属総合ミュージアム秋季展で取り上げられてきた日本近代のきものに注がれた思いや、着る物だけに身体感覚のような感受性が共有されることについて、専門の研究者が集って考察した。前63頁、編共著。総説(4-8)担当執筆。
4.粋を尽くす　近現代のきもの	共	2022年10月5日発行	2022年度武庫川女子大学附属総合ミュージアム秋季展図録	武庫川女子大学附属総合ミュージアム所蔵の近代衣生活資料に特徴駅な外出着や礼装の中から、主に「伊吹和子コレクション」を取りあげ、明治、大正、昭和戦前期の多様で趣向を尽くしたきものの文化史的な意義について探っている。全63頁、編共著。
5.王朝文化へのまなざし―戦前期女子教育における―	共	2021年10月20日発行	2021年度武庫川女子大学附属総合ミュージアム 秋季展図録	京都府立女子専門学校の系譜である京都府立大学女子短期大学部の閉鎖により、武庫が去女子大学に寄贈された教育標本資料のうち、「有職人形」7体及び、郷土人形について、背景となる女子教育・郷土教育との関係を探っている。総説分担、全63頁、編共著。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
6.2020年度武庫川女子大学附属総合ミュージアム 特別展　阪神間モダンライフ	共	2021年2月26日	武庫川女子大学附属総合ミュージアム	大阪道修町の薬種問屋を出自とするS家から、生活用品の寄贈を受け、明治期から第二次世界大戦後までの、儀礼用品から日常生亜k津用品までの資料の展示が可能になった。近代になって形成された阪神間の暮らしを取り上げ、大きく伝統とモダンの二つのテーマを基底において、モダンライフの一端を炙り出した。
7.ハレの日のきもの―近代の裾文様―	共	2019年9月18日	武庫川女子附属総合ミュージアム設置準備室	武庫川女子附属総合ミュージアム設置準備室2019年度秋季展「ハレの日のきもの―近代の裾文様―」の図録である。全60頁。
8.粗品？粗品！－時代の空気感を映す―	共	2018年10月	武庫川女子附属総合ミュージアム設置準備室	武庫川女子附属総合ミュージアム設置準備室2018年度秋季展覧会「粗品？粗品！―時代の空気感を映す―」の図録である。全72頁。
9.近現代のきものと暮らし―技術革新の成果と新しい担い手の成立―	共	2017年10月18日	武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室	武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室2017年度秋季展覧会「近現代のきものと暮らし―技術革新の成果と新しい担い手の成立」の図録。全64頁。
10.ミュージアムサロンの記録	単	2015年3月	武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科	科学研究費基盤研究C（課題番号24520929）による成果の一部である。武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室所蔵の中田家コレクションを対象とする調査研究の一環として、サロン運営によって地域の暮らしに関する記憶を発掘することを試みた記録である。全155頁。
11.生活文化玉手箱シリーズ⑤きものに寄せられた物語	単	2014年10月22日	武庫川女子大学出版会	武庫川女子大学付属総合ミュージアム準備室所蔵の近現代のキモノ資料に含まれる、明治後期から大正・昭和戦前期のキモノから、夢二風や華宵美人風の空気感や少女イメージを提案した中原淳一風の意匠を取り上げ、そこに語られる物語について、文芸作品を取り上げながら紹介する。
12.ミュージアムサロンの春秋	共	2014年10月20日	武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室	科学研究費基盤研究C（課題番号24520929）による成果の一部であり、武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室所蔵の中田家コレクションの調査研究の一般として、粗品・飾り物・贈答品に関するサロン開催の記録である。
13.生活環境学の知を考える２　生活を科学する	共	2014年3月10日	株式会社　光生館	横川・瀬口編共著　全175頁。生活の場は、科学的発見の場であると同時にその検証の場であることを仮説として、暮らしの現場から発掘できる課題を改めて科学の目でとらえることを試みる。快適さと健康、美しさ、心地よさなど具体的な事例に科学のメスを入れる。また生活の質を科学でとらえるほうほうについて取り上げる。
14.生活文化玉手箱シリーズ④花を着る―キモノにたくされた花鳥風月―	単	2013年10月16日	武庫川女子大学出版会	武庫川女子大学資料館 平成25年度秋季展覧会の図録。生活文化玉手箱シリーズ④として「花を着る―キモノに託された花鳥風月―」として展示した、約100点の花文様の着物を収録・解説する。
15.関西文化研究叢書別巻　洋裁文化形成にかかわった人々とその足跡―インタビュー集　その４－	共	2013年03月29日	武庫川女子大学関西文化研究センター	関西の洋裁店・洋装店に関する実態調査(2004)の結果、インタビューに応じてもらえた洋裁店13店のデザイナーの方々による、始まりから現在までの洋裁との関わり・その変容について、収録する。
16.生活環境学の知を考える１　生活の美学を探る	共	2012年10月25日	株式会社　光生館	横川編著。全212頁。道具と日用品・生活美術と手工芸、身体と空間・フェミニズムや循環型暮らしにも視野を拡大して、多面的な生活の中の美学を探求し、生活美学を論証する。先行する論考を参照し、大学における生活美学の系譜を調査することによって、講談美学とは異なる、暮らしに根差した美学の可能性を提示する。
17.生活文化玉手箱シリーズ③色香り街に咲くキモノの華物語―明治・大正・昭和のお召―	単	2012年10月17日	武庫川女子大学出版部	昭和初期に完成したといわれるお召（お召縮緬）の、武庫川女子大学史料館の収集品を中心に、第５回内国勧業博覧会染織鑑の中のお召、お召問屋「矢代仁」における明治期から現代まで継承されるお召標本帖や制作品を中心に収録し、お召についての伝承と現状を照らし出している。、京都府福知山市丹波生活衣館収蔵の丹波の人々が着用してきた「お召」のキモノも年代ごとに展望している。
18.生活美学の現在から未来に向けて	共	2012年01月	武庫川女子大学生活美学研究所	横川編著 武庫川女子大学生活美学研究所第1回プレシンポジウム報告書
19.かばん　鞄	単	2011年11月	吉川弘文館	明治時代史大辞典　分担執筆
20.生活文化玉手箱シ	共	2011年10月	武庫川女子大学資	横川公子編著

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
リーズ②共感のちから無名のちから　明治・大正・昭和を生きた人々の手芸品			料館	武庫川女子大学資料館平成23年秋季展覧会図録
21.生活環境学の知を考える３　生活をデザインする	共	2011年10月	光生館	横川公子編著、全180頁。日常の暮らしを客観化し抽象化することにより、総合的で情緒的な暮らしの現場に、分析的・合理的な根拠を求めて再構築することでデザインの提案を試みる。
22.生活文化玉手箱シリーズ①キモノの文字文様に託された世界	共	2010年10月	武庫川女子大学資料館	木立雅朗,青野卓司,並木誠士,井上雅人,青木美保子 キモノの文様に取り入れられた文字意匠は、古くは和漢朗詠集や源氏物語、謡曲など文芸的主題とするものが多くみられ、近世にはしゃれと風刺をこめた遊戯的気分にあふれた意匠、近代には戦争讃歌や童謡などをテーマとする意匠が行なわれた。文字が表現する内容は、文芸的趣向のほか縁起担ぎや頓智的遊び、時事的関心や着用者の主張を盛り込んだもの位及ぶ。
23.服飾史･服飾美学関連論文要旨集1998?2008	共	2010年03月	建帛社	相川佳予子,東　真美,飯塚弘子,ほか 1998?2008年の間に出版した、服飾史･服飾美学関連の日本近代服装史および民族服飾に関する論文の要旨を執筆する。
24.関西における洋裁文化の形成に関する研究（関西文化研究叢書11）	共	2009年03月	武庫川女子大学関西文化研究センター	村田裕子　藤本純子　徳山孝子　青木美保子　松井寿　山本泉　平光睦子　井上雅人　森理恵　松本由香 ２０世紀の日本における洋装化と洋裁文化の形成について、多角的な視座からの調査･研究をまとめる。大谷女子専門学校･神戸ドレスメーカー女学院・武庫川学院女子大学等学校教育における洋裁教育および洋裁学校の隆盛とその後、洋裁店の興亡、月刊誌「ファッション」の洋裁記事、女性の仕事や活動と結びついた洋裁文化、日本デザイナークラブの果たした役割など。
25.『ブックカバーに転用された包装紙』武庫川女子大学資料館展示図録	単	2009年03月	武庫川女子大学資料館	1957?1965年の9年間に蓄積されたブックカバーに転用された包装紙を中心に紹介する。包装紙を掛けられた雑誌は、「私のきもの」（43号）から「モード・エ・モード」（90号、「私のきもの」61号から改題）である。
26.洋裁文化形成に関わった人々とその足跡―インタビュー集　その３―	共	2009年03月	武庫川女子大学関西文化研究センター	編集 洋服のデザインと仕立、言い換えれば、洋裁をもって洋裁店や百貨店のデザイナーとなった人々や洋裁学校で洋服を制作したり、デザイナーを養成した人々の活動を記録し、再現している。
27.大村しげ 京都町家暮らし	共	2007年06月	河出書房新書	随筆家で料理研究家として知られる大村しげの、京都の町家における暮らしぶりを、残された生活財と関係者へのインタビューによって再現した。彼女の生誕から死に至るまでの年代記を構成している。編共著。
28.道具学叢書　道具学への招待	共	2007年04月	ラトルズ	面矢慎介、山口正伴、小林繁樹、真島俊一、・・・ 道具学会・道具学叢書委員会編『道具学への招待』（道具学叢書001）の、「くじり」と呼ばれている豆撒き具、を担当する。
29.モノに見る生活文化とその時代に関する研究ー国立民族学博物館所蔵の大村しげコレクションを通してー	共	2007年03月	人間文化研究機構　国立民族学博物館	横川公子・笹原亮二編著。相川佳代子、森理恵、角野幸博、山口昌伴、大塚滋、藤井龍彦、磯映美、林八千木 国立民族学博物館所蔵の大村しげコレクションの全てのモノについて個別に調査することを通して、コレクションの全体像を知ると同時に、コレクションを通して時代と文化をあぶりだすことを試みた。随筆家大村しげの暮らし方と思想について、京都の都心暮らしの生活様式、おばんざいの思想、生活用品の所持のスタイルなどが明らかにされた。
30.ＮＨＫ知るを楽しむ歴史に好奇心　3月京都きもの玉手箱	共	2007年02月	日本放送出版協会	横川公子，鳥居本幸代，河上繁樹，長崎巌 古来日本人にとってきものは自由で遊び心に満ちたアイテムだったことを現代まで見通している。平安朝の重色目の季節感のアレンジから始まって、中世に登場した小袖は、下着から正装まで展開する。江戸のファッションの先端は若い町人女性であり、明治に入ると女性の社会進出がはじまり、モダンガールが新しいきもの姿で街を闊歩した。
31.日本産業史事典	共	2007年	思文閣出版	山口昌伴、三宅宏司、・・・ 『日本産業史事典』（産業技術史学会編、思文閣出版）において、「衣の生活技術―家庭における針仕事の原像と変容」を担当する。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
32.繊維製品リサイクルモデル研究会　公開研究会報告書　Ｒｉｆｍｏ公開研究会２００６	共	2006年12月	武庫川女子大学生活環境学科生活文化第一研究室	編共著
33.新版　家政学事典	共	2004年07月	朝倉書店	（社）日本家政学会編 「服制」に関する、日本服制史と西洋の代表的な服制について整理し、紹介する。
34.衣と風俗の100年	共	2003年03月	ドメス出版	横川・井上・三宅 第１章「人絹とミシン」を担当。史上初めての人工素材である人造絹糸が、開発されてから一般に普及するまでの過程で、拒否と肯定の紆余曲折の評価を得ながら浸透したことについて取りあげる。製造に関する側面のみならず、販売（百貨店や小売店）や婦人雑誌などの啓蒙記事や批評なども試料として活用し、現代生活に不可欠な生活素材として肯定されるまでの経緯を、生活文化学的視座より明らかにした。担当（pp.22-54）
35.『日用品』の20世紀	共	2003年03月	ドメス出版	近藤・朝岡・山口・横川ほか 国立民族学博物館のシンポジウム記録である。道具・器具の改良・開発，新素材の出現は、20世紀の民族文化をいかに変えたかについて検討する。筆者は、「人絹の開発からファッション化までー人絹が繰り広げた世界ー」を扱い、人工素材の開発と普及をめぐる人々の価値観の変容を取りあげている。担当（pp.167ー186）
36.服飾を生きるー文化のコンテキストー	共	1999年03月	化学同人	服飾を通して人間や社会と対話するための、研究方法や課題の提案を意図した。服飾研究の資料、服飾を担う製作者や着用者、発注者への着目によって研究方法と分野の広がりを追求した。さらに服飾と性や産業、伝統との関わりを具体的現象に即して論及する。担当（pp.１?19,pp.38?44,pp.69?84,pp.136?145）
37.生活美学		1998年12月	朝日新聞社「アエラ・ムック」『生活科学がわかる』	文化としての生活を提案するために、モノやマナーから生活感覚を読み解くことを概説している。さらに具体的な講義と研究について展望する。全（pp.46）
38.歴史学事典第２巻「からだとくらし」	共	1994年10月	弘文堂	樺山紘一編、相川、岩崎、奥村、横川ほか 第一にからだの諸器官と生理機能、および保健と医療の様相について、第二に人生の諸段階が持つ意味。第三に日常生活における衣食住。第四に遊戯、趣味や自由時間のカテゴリーが取りあげられている。それぞれ、歴史学の学的方法と課題を論述するもので、各事項の研究史の概略、現在の研究動向、今後の課題、展望を探っている。横川分担課題は、服装（衣服）、装う（着る）である。（pp.173-174、pp.589-591）
39.衣生活論	共	1994年05月	化学同人	藤原、前川、村岡、矢井田、横川 衣服における精神的機能について、着衣が基本的習性であり第二の自然ともいうべき身体そのものであることに着目して考察を展開している。また起源論、服装史、現代社会における衣の実態に着目して、衣服のイメージ、価値、象徴、衣服への態度や服装の表現する意味などをとりあげ、論述している。（pp.１-11）
40.テキスト生活美学	共	1994年04月	光生館	多田・鷲田・横川・大塚・磯・角野・大森・平松・藤本・森谷・高田・梶原・佐藤・河合 生活世界の中の物や行動を通して、文化を読むことをめざしている。服飾、飾り、味、敷物、店、色彩、香と音、おもちゃ、花、旅と観光、物語などを取りあげ、日常的な生活世界での物や行動の表現の可能性について展望している。担当（pp.23?28）
41.服飾表現の位相	共	1992年03月	昭和堂	横川編著。河原、堀、塚本、羽生、増田、岩崎 服飾を人間精神の内的表現性にもとづく独自な文化的・美的な所産として認識し、考察することを目的とする。周辺諸学との関係、服飾と芸術、記号表現と象徴的表現、身体性、デザイン、歴史、地域性、社会性の各視点から服飾表現の可能性について検討している。服飾がまとまりのある人間の営みとして、極めて精神的な存在であることについて、理論的に捉えようとしている。　分担横川（pp.

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				1?32、151?172)
42.家政知を考える	共	1988年12月	昭和堂	長嶋、乗本、外山、横川、宮坂、寺田、北田、小林 家政学のパラダイムのありように対して、生活認識的視座からの変革の契機を見出し、家政学原論への問題提起を意図する。各執筆者は事実において暮らしを方向づけ、多様な現実生活のうちに潜み、それを支えている知を探ることを各局面において試みた。家政学を構成する諸概念がどれほどに実体的基礎を保ちえているかを再確認することにもなった。　分担横川（pp.75?98）
43.家庭科教育論	共	1988年02月	東信堂	加地芳子編著。加地宏、倉盛、成瀬、岩崎、斎藤、花城、吉井、網野、横川、吉村、今津、城、子安 制度として、男女の別を意図しないような家庭科が実現したとき、実務のためばかりでなく、普通教育としての家庭科の実現はいかに可能かについて、様々な立場より考えている。これまで等閑視されてきた家庭の枠を越えた問題についても、視野をひろげて捉えている。　分担横川（pp.149?157）
44.京鹿の子－美と伝統－	共	1975年03月	京都絞工業組合	吉田光邦編。元井、相川、奥村、横川、岩崎 歴史編、現代編、図版よりなる。歴史編では古代より昭和初期までの絞りの使用と技法を追究する。現代編では生産形態、加工工程について、すべて実態調査にもとづく報告と資料の報告・解説をする。図版は現存する古代衣装から現代の絞り作品までの写真と、図像資料が幅広く収録されている。　分担横川（pp.127-135、145-156、159-178、198-224）。　1980年9月、淡交社より普及版『京鹿の子－美と伝統－』が刊行されている。
2 学位論文				
3 学術論文				
1.着物の粋から洋装のエレガンスへ　近代における大阪ファッションの系譜	単	2025年1月13日発行	季刊民族学191号 国立民族学博物館	
2.明治期における一女性による技芸修業の遺品から一山口ツルコレクションの図案・型紙等の内容一	単	2023年3月16日発行	武庫川女子大学附属総合ミュージアム 紀要・年報　第3号	武庫川女子大学附属総合ミュージアム所蔵の山口ツルコレクションの半襟型紙・ミシン刺繍用の半襟図案を取り上げる。図案の取材は、着物と共通するもので、植物・気象・風景・動物・器物・文字に及び、吉祥のアレゴリーや中国文化に由来し日本文化に溶け込んだものや親しみのある取材もあり、着物の着装との関連も予想される。これらがミシン刺繍にも取り入れられていたことも興味深い。
3.『白い巨塔』の服装表現について一生活のイメージを文芸作品の服装表現に探る一	単	2021年2月刊行	大阪商業大学商業史博物館紀要　第21号	作家・山崎豊子が登場人物たちを性格づけるために、病院や大学などの場面を設定し、そこに登場する人々の服装に何を託したかを探り、高度成長期の大阪の都会人イメージが、どう解釈され、作品にどう昇華されたかを追跡する。着衣のドレスコードが作品のリアリティに直結している。
4.プラスチップの粗品をめぐって	単	2020年3月16日	武庫川女子大学附属総合ミュージアム	武庫川女子大学資料館紀要　第13号、pp.34-44。武庫川女子大学附属総合ミュージアム所蔵の中田家コレクション総数、約20,000点には、1,898点の粗品が含まれ、1980年頃～2009年までの集積である。日用品が多いが、プラスチック素材のものが目につき、ダイニング用具・キッチン用具、サニタリー用具、ピクニック用品、その他に分類できる。新しい暮らしの香りを添えるものやアイディアグッズが目を引く。
5.大家家の着物	単	2019年7月24日	大阪くらしの今昔館	大阪くらしの今昔館主催の展覧会図録「大大阪に咲いたレトロモダンな着物たち～北前船船主大家家のファッション図鑑～」p.50、他に「礼装の成立と普及」「外出着の成立」のほか、図録掲載きものの解説を執筆分担する。
6.山口ツル袋物コレクションについて一名称を中心に一	単	2018年12月31日	武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室	武庫川女子大学資料館紀要　第12号掲載。
7.国際的イベントコスチュームとして着用するための和服の改良一新しい「きもの	共	2018年12月31日	武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室	武庫川女子大学資料館紀要12号に掲載。国際的イベントコスチュームとして着用するために求められる和服の改良点について、形態・染色・図案・縫製の視点から検討し、より現実的で量産可能な新しい「きものドレス」の提案・制作を提案した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
ドレス」の提案ー				
8.モノに見る現代日本の生活文化と歴史の発掘及びその活用	単	2016年3月31日	武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室	武庫川女子大学資料館紀要　第10号掲載。
9.室内装飾における西洋風の需要と葛藤	共	2013年03月31日	武庫川女子大学紀要（人文・社会科学）60、pp.95-106	婦人雑誌『婦人画報』(明治39年7月号～昭和19年4月号)を主な資料として、“インテリア”に類似の用語として使われる“室内装飾”に関連する関連用語をすべて取り上げ、当時の関心とその特徴について検討した。西洋風のまねから始まったインテリアの要は、家具と窓の装飾であった。
10.近代友禅の革新と発展を語る定本	単	2012年03月	ゆまに書房、森仁史監修『叢書近代日本のデザイン第40巻』	近代友禅史解説
11.染織図案と図案家の成立	単	2012年03月	ゆまに書房、森仁史監修『叢書近代日本のデザイン第39巻』	染織図案変遷史解説
12.戦時統制期の鈴鎌毛織工場関連資料とその目録（二）経理・技術資料を中心に	単	2011年03月	民俗と風俗	尾西市三条を代表する毛織物業「鈴鎌毛織工場」所蔵の戦時統制期17年間（1939?1950）の資料群のうち、主に経理・技術資料を中心に、現当主の所蔵者、鈴木氏による資料に関する聞き書きとともに整理している
13.食玩における余剰の価値ー食玩の意味の多様性ー	単	2011年03月	道具学論集	おまけとしての本来的な意味を超える食玩の価値づけに焦点を当て、現代生活における食玩の位置と関係性について炙り出している。お心づけとしての食玩、造形におけるリアリティーの追及、教育的ツール、ミニチュアによる意味の拡大、おままごと化、神格化などを取り上げている。
14.生活財の移動が示唆する物語ー平成21年度寄贈品収蔵までの経緯からー	単	2010年03月	武庫川女子大学資料館紀要	平成21年度に資料館にもたらされた寄贈品は3件で、それぞれ大阪市美章園の町家の生活財、くらしのきもの資料館からのきもの、三宅家の生活伝来品であり、合計数万点に及ぶ。本稿ではそれらの移動に伴う寄贈者の思いと契機を記録したもので、現代における生活資料の収集のあり方を示唆する。
15.洋裁文化の形成ー受容と拒否、新しい価値意識、我々のこなし方などー	単	2010年03月	生活デザイン	洋裁文化の内包する価値について多面的に考察する。表現行為、生活文化、仕組み、東洋の視線の中での洋裁、洋裁技法の来歴、教養主義、洋裁文化が開示した価値等々。
16.戦時統制期の鈴鎌毛織工場関連資料とその目録（一）生産･流通関係資料を中心に	単	2010年03月	日本風俗史学会中部支部・民俗と風俗	尾西市三条を代表する毛織物業「鈴鎌毛織工場」所蔵の戦時統制期17年間（1939?1950）の資料群のうち、主に生産･流通関係資料の内容目録を、現当主の所蔵者、鈴木氏による資料に関する聞き書きとともに整理している。
17.食玩に関する生活文化学的研究Ⅲマスメディアに表れた食玩	共	2009年12月	武庫川女子大	矢田部　愛
18.明治期における一女性の技芸修業ー故山口ツル氏の遺品、袋物標本とその型紙を通してー	単	2009年12月	武庫川女子大学紀要（人文･社会科学）	明治末故山口ツルは、単身上京してシンガーミシン裁縫女学院でミシン裁縫を学んだ。その傍ら袋物教授所で袋物制作を学び、実物資料40点と多くの型紙（170点余）を残した。それらの整理によって袋物標本の全容が分かるとともに、紙背文書からツルの履歴と裁縫女塾の構想と実践が浮かび上がっている。
19.おわりにー収集資料のことなどー	単	2009年03月	関西における洋裁文化形成に関する研究（関西文化研究叢書11）	5年間（2004年?2008年）にわたる「関西における洋裁文化形成に関する研究」の実施過程での発掘資料・寄贈資料を紹介する。主な内容は以下の通りである。①今竹七郎コレクション洋裁文化関係資料　②原田和枝コレクション作品　③春日丘高等女学校同窓会藤波会寄贈関連図書　④上田安子服飾学園「服飾手帖」57冊　⑤洋裁雑誌「私のきもの」44冊
20.はじめに　本書の趣旨と構成	単	2009年03月	関西における洋裁文化形成に関する	関西における洋裁文化形成に関する研究の趣旨および全体の構想

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
			研究（関西文化研究叢書11）	について述べる。
21.東アジアにおける洋装化および洋裁文化の形成と葛藤	単	2009年03月	東アジア三国の文化ー受容と融合ー（関西文化研究叢書）	２０世紀における韓国･台湾･日本における洋装化および洋裁文化の形成について、①洋装の公式的な受容　②学校制服の洋装化　③戦争と洋装化との関係　④洋裁教育の４点から展望する。西洋型衣服の受容は、地域や国の事情、歴史、生活感情や主張をあぶりだした。
22.　関西における伊東茂平の軌跡	単	2009年03月	関西における洋裁文化形成に関する研究（関西文化研究叢書	洋裁文化に関連した伊東茂平の年賦と関西における弟子たちの活躍、伊東茂平の洋装観・洋裁観を考察する
23.学会活動の回顧と展望　服飾史・服飾美学部会	単	2009年03月	日本家政学会誌	日本家政学会服飾史・服飾美学部会の最近10年間の活動について、活動目標・研究活動・運営・出版や公開講演会などの実際を総括する。
24.ブックカバーに転用された包装紙	単	2009年03月	武庫川女子大学資料館展示図録『ブックカバーに転用された包装紙』	1950年代?60年代の『私のきもの』に掛けられたブックカバーに転用された包装紙を通して、包装紙自体のデザインの特徴、ブックカバーに込められた思い出と記憶、その背後にある包む文化との関連等についての小論である。
25.環境配慮型生活における生活質感評価法の研究Ｉ－生活モデルへ模索への覚書―	共	2009年03月	武庫川女子大学紀要（人文・社会科学）	横川公子・森田雅子・岡田春香・黒田智子・佐々尚美・鈴木優里・富田高代・中谷幸世・西田徹・水野優子・山本泉 生活環境学における人・生活と生態学的環境との関係性を解明することを目的として、様々な生活領域（衣食住や地域共同体など）における生活質感評価法を探る。本報告はその中間的な覚書である。
26.食玩に関する生活文化学的研究Ⅱ－生活財としての食玩の表象文化的研究―	共	2009年03月	武庫川女子大学紀要（人文・社会科学）	森田雅子・遠藤久美子・坂井加奈・徳山孝子 食玩をめぐる生活の中での様々な存在様態と、その背後にある文化的要素、マンガ、フィギュア、コレクター･マニア等との関係を探ることで、食玩の文化的表象としての意味について、生活文化学的・表象芸術的視点から考察する。
27.服飾研究の現場 報告書『東アジアにおける洋装化と洋裁文化の形成を』めぐって	単	2008年12月	デザイン理論	東アジアを視野に入れ、主として19世紀後期から20世紀における各地域の伝統的な衣生活の中に浸透した洋装について、洋裁文化という切り口で検討した。日本、韓国、台湾、在日、インドネシアの事例報告とそれらをめぐって展開された討論について、報告する。
28.雑誌「主婦の友」の記事“美容問答”から見る美容への関心	共	2008年11月	武庫川女子大学生活美学研究所紀要	玉置育子 雑誌「主婦の友」の記事“美容問答”には、大正期から昭和初期の西洋式の化粧法と化粧品の普及に伴う悩みや相談が寄せられており、これに美容家（藤波芙蓉）が応えている。このやり取りに見られる、当時の女性の美容への関心を通して、装いへのこだわりや主体的な自覚の仕方が示唆された。
29.時代の中の「きもの」―日本服装史から―（6）羽織の表情	単	2008年11月	繊維学会誌（繊維と工業）	日本服装史の中で、羽織は男の着衣、特に江戸時代には袴と組み合わされて様式化を遂げ、武士の日常着、町人の礼服として男子の表道具となる。色や形態、素材の変化は、時々の流行ともなり様々な表情と価値付けを創出。特に羽裏には遊び心溢れるデザインが施され、遊興の場の着衣としてしゃれ心が表現される。
30.時代の中の「きもの」―日本服装史から―（4）近代女性の「きもの」	単	2008年09月	繊維学会誌（繊維と工業）	日本服装史の中から、近代における銘仙とモスリンを取り上げ、それらがモダンガールのきものとして特徴づけられる新規さを、技術とデザインの上で実現していたことを論じている。
31.時代の気分を読む―日常生活からの予兆―	単	2008年8月	第17回繊維連合研究発表会講演予稿集	国立民族学博物館所蔵の大村しげコレクションの衣料品調査とその著作を参照し、循環型の和装生活を指摘する。さらにそうした暮しを支える社会的な価値意識と流通の仕組みがあったことを指摘する。それらのことを通して、日常生活からあぶりだせる美意識や価値意識の形成につて展望する。
32.明治以降の尾西地方の織物と関連資料―	単	2008年07月	日本家政学会服飾史･服飾美学部会会	明治期からの尾西市毛織物業の中枢に位置した「鈴鎌織物」に残さ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
鈴木貴詞氏のご講演から―、			報	れた、毛織物業に関する幅広い資料に関する講演（鈴木詞氏による）を紹介する。
33.時代の中の「きもの」―日本服装史から―（１）特集にあたり	単	2008年06月	繊維学会誌（繊維と工業）	日本の服装史の中に「きもの」の祖形から西洋化までを概観することを通して、きものが時代のなかの産物であり、時代の感性を担う仕掛けであることを紹介する。
34.大阪心斎橋洋裁サロン｢原田和枝｣氏の作品	単	2008年03月	関西文化叢書　東アジアにおける洋装化と洋裁文化の形成	武庫川女子大学関西文化研究センターによる国際シンポジウム「東アジアにおける洋装化と洋裁文化の形成」と同時開催された展覧会「関西洋裁文化玉手箱」で展示された、大阪心斎橋に太平洋戦争後はじめて開かれた洋裁サロン「原田服飾」のデザイナー、原田和枝氏の作品を解説する。
35.シンガーミシン裁縫女学院の雛形	単	2008年03月	関西文化叢書　東アジアにおける洋装化と洋裁文化の形成	武庫川女子大学関西文化研究センターによる国際氏シンポジウム「東アジアにおける洋装化と洋裁文化の形成」と同時に開催された展覧会「関西洋裁文化玉手箱」において展示された、明治40年ころのシンガー洋裁女学院で製作された洋裁雛形を紹介する。
36.シンポジウム総括	単	2008年03月	関西文化叢書　東アジアにおける洋装化と洋裁文化の形成	武庫川女子大学関西文化研究センターによる国際シンポジウム「東アジアにおける洋装化と洋裁文化の形成」の提案と討論を総括してまとめている。洋装化と洋裁文化の受容は、直線的に進められたのではなく、戦争と統治という国際関係を反映して推進され、紆余曲折を経過するが、全体として工業化に組み込まれた。
37.シンポジウムの趣旨	単	2008年03月	関西文化叢書 東アジアにおける洋装化と洋裁文化の形成	武庫川女子大学関西文化研究センターによる国際シンポジウム「東アジアにおける洋装化と洋裁文化の形成」の趣旨をまとめたものである。東アジアにとって洋装化と洋裁文化が異文化体験として共通する側面のみならず、生活レベルでの受容の仕方に注目する。
38.洋裁文化に関するインタビュー調査からみた洋裁文化の諸相―	単	2007年06月	関西圏の人間文化についての総合的研究第4回国際シンポジウムプログラム／要旨集「東アジアにおける洋装化と洋裁文化の形成」	武庫川女子大学関西文化研究センター主催の関西圏の人間文化についての総合的研究第4回国際シンポジウムプログラム／要旨集「東アジアにおける洋装化と洋裁文化の形成」において報告した内容の要旨である。
39.日本中世の服飾に見るセクシュアリティとジェンダー―主に『とりかえばや』を通して―	単	2007年06月	平成16年度?平成18年度科学研究費補助金（基盤研究(C)）研究成果報告書『服飾におけるジェンダーの比較文化的研究』（	研究代表者：日本女子大学　佐々井啓による共同研究「服飾におけるジェンダーの比較文化的研究」の一部として、日本中世の服飾におけるセキュシュアリティとジェンダーについて、『とりかえばや』を拠り所として調査分析する。
40.台北における食玩事情	共	2007年03月	生活デザイン研究	延藤久美子・岡田春香 日本で発信された食玩の海外への波及調査を台湾で実施した。その結果、テレビアニメーションの受容を背景として、食玩の愛好も同時進行していることが判明した。が、台湾のマニアの間では、食玩が投機の対象になっている傾向が指摘できる。
41.大村しげのこだわり―ものの収納場所と収納用具から―	単	2007年03月	『モノに見る生活文化とその時代に関する研究』国立民族学博物館調査報告	国立民族学博物館所蔵の大村しげコレクションのうち、収納の装置形に関して、収納用具・配置・収納内容を分析することによって、元の所蔵者大村しげのこだわり方を考察している。
42.収納の装置	単	2007年03月	『モノに見る生活文化とその時代に関する研究』国立民族学博物館調査報告	大村しげコレクションの内容構成のうち、収納の装置を抽出し、その置き場所との関連で分類することで、町家における収納の装置系の種類と配置について明らかにしている。
43.大村しげコレクションの内容構成	単	2007年03月	『モノに見る生活文化とその時代に	国立民族学博物館所蔵の大村しげコレクションの内容構成につい

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
			関する研究』国立民族学博物館調査報告	て、『文化項目分類　日本語版』（国立民族学博物館発行）を主な手がかりとして、分類整理し、内容構成の特徴について記述する。
44.大村しげコレクションのものの周辺	単	2007年03月	『モノに見る生活文化とその時代に関する研究』国立民族学博物館調査報告	国立民族学博物館所蔵の大村しげコレクションの内容に関する由来と背景について記述する。
45.企業のアパレルデザイナーから百貨店へ	共	2007年03月	関西文化研究叢書　別巻　洋裁文化形成に関わった人々とその足跡ーインタビュー集その２－	横川公子、平光睦子 関西の洋裁文化の形成においてデザイナーとして先駆的な役割を果たした関係者にインタビューして、その体験や記憶を記録し、関西における洋装化と洋化形成に関する社会的・歴史的意義について考える。企業におけるアパレルデザイナーとして先駆的役割を果たされた小田順子氏の体験を聞き出し、整理したものである。
46.食玩における不要の用ーずれと過剰ー	単	2007年03月	生活デザイン研究	「不可欠ならぬ付け加え」というオマケの特徴を持った食玩の不要性がもつ機能・意味について、考察する。グリコの豆玩に発する食玩の基本的特徴が、現代生活の中で、テレビアニメーションのキャラクターと結合し、さらに精巧なミニチュア･フィギュアと結びついて、主役になるとともに、科学的･博物学的興味とも重なることを指摘した。
47.現代日本の生活文化における食玩（おまけ）に関する序説	共	2006年12月	道具学論集	横川公子、森田雅子、西田徹、山本泉、北村薫子、櫻谷香り、延藤久美子、岡田春香 現代日本の生活文化における食玩の位置について、食玩の存在様態に注目することにより、生活文化学的に解明し、生活文化に関する切り口と展望を提案。販売促進用のおまけに端を発したミニチュアであり、玩具や菓子の枠を超えてコンビニやスーパーで販売。子供のみならず大人を巻き込んだマニアを排出。日本的な情景や生活、テレビアニメのキャラクターに取材し、時代と社会の鏡となっていることを見通す。
48.食玩に関する生活文化学的研究Ⅰ食玩情報の所在および調査方法に関する覚書	共	2006年03月	武庫川女子大紀要（人文･社会科学）	横川公子、延藤久美子、岡田春香、北村薫子、櫻谷かおり、西田徹、森田雅子、山本泉 生活文化としての食玩について、普通の生活空間の中でどのように存在しているのかについて検討し、生活文化の未来的予兆について考察することを目的とし、調査の方法及び中間的な見通しについて扱う。
49.和装関連図書に見る和装品メンテナンスの知識とその問題点ー最近（1954-2005年）の雑誌関連記事の記述量と内容からー	共	2006年03月	武庫川女子大紀要（人文･社会科学）	磯　映美　上田一恵　横川公子 現代における、和装品のメンテナンスに関する知識の伝授の仕方とその内容について明らかにする目的で、生活関連書籍に掲載された記事を分析し、和装の手入れに関する内容と量について調査・検討した。その結果、関連書籍全体に占める割合は、手入れ記事2.8パーセント、畳み方記事4.6パーセントに過ぎない。他の和装の着方に関。する記事に較べ、きわめて少ないことが判明した
50.研究余滴　洋裁文化隆盛の時代ー1952年~1983年関西における洋裁文化資料の発掘からー	単	2005年09月	服飾美学	西宮市大谷記念美術館所蔵の今竹コレクション調査によって、関西ファッションの形成に関する知見を紹介。故今竹七郎関連資料に含まれる日本デザイナークラブ（略称はNDC）関連資料は、第1回ファッションショー開催から約30年にわたる資料で、ショーのカタログ・デザインコンテスト目録・機関紙・名簿・招待状や招待券・パンフレット･チラシ・ポスターなどが含まれ、戦後の洋裁界の隆盛を、当事者の活動の側面から示唆する。
51.芭蕉布と〈かりゆしウェア〉のあいだ	単	2005年08月	季刊道具学	現在のかりゆしウェアの普及について、主にフィールド調査によって明らかにした。かりゆしウェアが、沖縄のオリジナルウェアとしてアロハシャツを元に範案されたのは1990年はじめであるが、2000年の九州･沖縄サミットを機に公式化が進み、TPOに対応したバリエーションの形成と使用が拡大している。喜如嘉の芭蕉布は、伝統工芸品として商品流通に成功し、上等なオリジナルウェアにも見合う素材として位置を獲得している。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
52.収納場所と収納用具―事例「大村しげコレクション」から―	単	2005年03月	生活美学研究所・『生活デザイン研究』（『感性研究』改題）	国立民族学博物館所蔵大村しげコレクションの調査に基づいて、大村しげ旧宅におけるモノの在り場所とその場に関する価値付けの仕方を検討し、ひとつの様式見解を提案している。
53.意匠学会第45回大会報告	単	2004年05月	意匠学会編集委員会『デザイン理論』	武庫川女子大学で開催された「意匠学会第45回大会報告」に関する概要を収録するとともに、その際開催されたシンポジウム「戦後50年の服飾文化および服飾デザインに関する概説書」に関する成果について、論評している。
54.ラサ・チェダンの女装にみるチベットの装い	単	2004年03月	民族芸術　20巻	チベットの現代の女装を取りあげることで、民族とモードとの関係について考察する。ラサ・チェダンでの観察事例400点余の分析を通して、都市部・農村部や観光客や巡礼者などに共通する●●的な民族服があることを提案し、それらが伝統に根ざしながらも、新しい工業製品の素材や量産品をこなして取り入れながら、根にある「こだわり」として、民族文化を受けつぐものであることを指摘した。全（pp.89?96）
55.服飾文化学と服飾デザイン分野の現在を考えるために　－序にかえて－	共	2003年11月	戦後50年の服飾文化および服飾デザインに関する概説書　－意匠学会第45回大会シンポジウム資料集－	横川・青木・井上・平光・松本・森・山本 戦後約50年の服飾文化学・服飾デザイン分野における研究と教育の状況について整理し、成果と課題を提案することをめざした。当該分野で出版された概説書、約1600冊から100冊を選抜し、これらが何をどのように取り上げてきたかについて検討し、意匠学会第45回大会の企画シンポジウムの資料集として作製された。日本服飾史の推移・民族服飾と被服心理学の展開、社会学とファッション、デザイン領域の処在、服飾美学の展開等取りあげた。担当（pp.１?７）
56.モノ世界のフィールドワーク	共	2003年06月	民博通信　101巻	横川・森・笹原・田口・相川・磯・林 担当（pp.１） 日常生活の中のモノに関する表象文化の調査研究法とその見通しについて。
57.ラサ・チェーダン督見紀行－装いを中心に－	単	2003年03月	道具学論集　６号	2002年度期に実施された、道具学会主催の「中日比較道具文化研究会中国調査」における調査の報告である。ラサ・チェーダン地区の女装の類型的な着衣・着装について取りあげている。老若男女によるジェンダーの差異，近代化（西洋化）の相，中国文化大革命の反映・残存の様式などが確められた。全（pp.20?30）
58.江戸期における松模様	共	2003年03月	中部風俗史学会紀要　13巻	岡林・横川 『小袖雛形本集成』（１?４）におさめられた31種の雛形本に描かれた、すべての松模様を抽出した。その結果、松模様の図線的特徴やその特徴の差異を分類するとともに、松模様のテーマを探ることを試みた。松模様の様式は多様で、具象的なものから便化したものが含まれ、また取材も老松から若松・松葉・松皮・枝松など、あらゆる部分が取り入れられていることがわかった。テーマは吉祥が中心であるが、長寿を意味するものが多い。担当（pp.１?７）
59.大正?昭和初期における洋装下着の受容	共	2003年01月	ファッション環境（ファッション環境学会誌）　12巻　３号	宮井・横川 二股に分けて下半身をおおう「下穿」は、洋装下着のひとつとして、近代以降、婦女子の間に普及した。『婦人世界』『主婦の友』を主な手がかりとして、形状や着用の仕方，着用者との関係を検討した。下穿の形には「開放式」「半開放式」「閉鎖式」があり、「閉鎖式」が現代につながる典型的な洋装下着であった。これらの着用は、衛生的，社会的（道徳的）機能の面から勧められ、文明化の上で重要とされた。担当（pp.28?36）
60.西鶴町人物における挿絵の服飾（二）尻からげ	単	2003年01月	風俗史学（日本風俗史学会誌）152巻	井原西鶴著「町人物三部作」の挿絵に描かれた服飾に注目した。男装のうち最も多く描かれている「尻からげ」の姿を取り上げた。「尻からげ」は、町人に独自の装い方で、戸外での旅姿，労働する姿の典型であった。旅姿としては、袴や羽織との組み合わせた着装でもあり、六尺・下人の簡素な半裸体の基本的着装様式から、手代や主人の他の着衣との組み合わせまで、着用者と着用場面によって、機能や意味に変容が認められた。全（pp.１?17）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
61.〈近代化意識〉から〈地域意識〉への変容　－大阪府能勢町における調査事例から－	単	2003年	武庫川女子大学生活美術研究所紀要　13巻	大阪府能勢町における、戦後50年の研究・調査報告を発掘し、それらの独自の視座について分析した。その結果、戦後50年間には大きく３つの視座の変容が認められることが判明した。第１期は近代化推進の視座であり、古いモノや郷土生活を否定した。第２期は近代化のための開発の推進とそれへの反動の立場が交錯。第３期には、地域の独自性への注目やその発掘の必要性が価値づけされる視座が、浮上した。全（pp.65?78）
62.現代日本の縮図としての日本展	単	2002年12月	国立民俗博物館『2002国際シンポジウム　隣の国、日本－韓国における日本文化の表象－』（韓国国立民俗博物館発行）	2002年に韓国国立民俗博物館で開催された「隣の国　日本－韓国における日本文化の表象－」展の展示に関する国際シンポジウムでの報告が出版された。日本の表象として、誕生から死に至る人の生涯の行事，若者の暮らし，サラリーマンの１日，マイノリティとしての沖縄の文化などが展示され、現代日本の縮図としての展覧会として評価できることを述べる。全（pp.69?79）
63.儀礼の装い－婚儀－	単	2002年10月	感性研究（武庫川女子大学生活美学研究所発行）　2巻	儀礼環境のうち、婚儀を中心として近世以降、現代までの変容を扱った。装いは、儀礼の意味を視覚化するが、とりわけ花嫁の衣装は、花嫁の属性－家族関係や親族との関係や社会的立場－を象徴的に表現する。明治期以降では、天皇を頂点とする社会的立場に組みこまれた装いが形成され、太平洋戦争後は、産業化された儀礼環境の中で伝統的な秩序からの離脱が進み、脱価値的脱意味的な変容が見られた。全（pp.30?51）
64.『婦人世界』に見る化粧に関する記事の変遷	共	2002年09月	日本顔学会誌　2巻	横川・玉置 雑誌『婦人世界』の化粧に関する記事を取りあげた。関連記事は約150件あり、約50項目の内容が含まれる。内容で多いものは、外出時の化粧，モダンな化粧，白粉に関するもの，眉に関するものであった。明治期における関心は、舶来化粧品の紹介と心粧の心構えについてが多く、精神的な美しさが説かれた。大正期では、洗顔中心の肌の手入れと外出先に合わせた化粧法が中心で、女性の外出行動にあわせたものであった。担当（pp.111?123）
65.現代の衣生活	単	2002年09月	アパレル科学概論（朝倉書店）	（松生・岩崎・横川・黒子・丹羽・米田・前川・中川・福村・宇野・森・今岡）□現代の衣生活の特徴として変化を捉えた。変化の要因は、合成繊維の浸透，量産システムの完成と生産の空洞化，流通革命の諸相，ファッション化，脱ジェンダー化，グローバリゼーションの展開などを捉えることによって、価値の実現と欲望の充足スタイルの多様性，新たなコミュニケーションの形成，伝統の継承と変容などについて考察している。全（pp.181?190）
66.アパレルの目的と機能	単	2002年09月	アパレル科学概論（朝倉書店）	（松生・岩崎・横川・黒子・丹羽・米田・前川・中川・福村・宇野・森・今岡）□衣服の起源論，生活目標と衣服，衣服に関わる技術的到達目標と衣服との関係さらに衣服と人間らしさとの深いかかわりに注目して、衣服の目的と機能について論じている。全（pp.16?22）
67.雑誌『婦人世界』の記事“美容問答”から見る美容への関心	共	2002年02月	ファッション環境学会誌（ファッション環境）　11巻　3・4号	横川・玉置 明治・大正・昭和にかけて発行された『婦人世界』誌における美容・化粧に関する記事に注目。それらのうち相談コーナー「美容問答」を分析。相談内容中、最も多く注目できたのは鼻に関するもので“脂性で困る”“赤い”“整形手術の悩み”であった。悩みの解決方法は、美容家によって異るが、機械や薬を用いる人工的方法からマッサージによる自然的方法まで示唆され、化粧品販売などの商業主義と結合したり、健康への関心が示された。担当（pp.64?73）
68.書評　始原的布の世界を発掘『アフリカの布－サハラ以南の織機、その技術的考察－』	単	2001年10月	意匠学会誌（デザイン理論）　40巻	全（pp.129?132）
69.モノで構成される結	単	2001年10月	武庫川女子大学生	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
婚式			活美学研究所紀要 10巻	現代の結婚式は、多様化している。互助会系の結婚式が様々な趣向をこらして魅きつけたことが、現在では広く行れ、格式を重んじるホテルでの結婚式をも巻きこんだ。ブライダルグッズも新たに浸透している。家と家の結合から、新郎新婦の個性や仲間の共有する好みのスタイルへという変様が、結婚式（含む披露宴）を装飾するモノを多様化させたと思われる。全（pp.89?94）
70.西鶴町人物の挿絵における服飾－男装と女装の枠組－	単	2001年09月	日本風俗史学会（風俗史学） 40巻 3号	西鶴町人物における全ての挿絵に描かれた登場人物の姿つまり着衣、着装に注目した。男装と女装には類型性があり、男装として羽織・袴・肩衣・裃や脇差・煙管・杖・脚半などの小物、女装として打掛がそれぞれ独自に認められた。これらの類型的な着衣・着装は、類型からの変異が整理でき、生活上の立場や職業・職種・上下関係などのしくみや、それらに伴う規矩の実際を反映することが展望された。全（pp.39?67）
71.衣生活の近代化のなかで毛織物の持つ味わいが果した役割	単	2001年06月	繊維機械学会誌（繊維工学） 54巻 6号	素材の味わいは、色・模様・形態と並ぶ衣服の表現的な構成要素である。近代になって新素材として毛織物が普及したとき、人々は違和感をもちながらも、それらの味わいを新しい趣向として受容した。和装の素材としてネル・セル・モスリンという新しい毛織りの素材が定着し、新式の曲線の味わいと和洋折衷の効果として受容された。木村荘八や竹久夢二らによる言説を当時の婦人雑誌に求め、それらの実際を検証した。全（pp.14?18）
72.科学と感性－モガの断髪など－	単	2000年03月	感性研究－生活美学研究所感性小研究会報告書－	第一次大戦後から満州事変が勃発した昭和初期にかけて、巷にモガが出現した。彼女たちは時代の申し子として新旧交替の過渡的存在だった。モガは外観によって特色づけられる。断髪はその特色のひとつである。断髪はモガ自身の心の革命であり、時代への反旗の表明であり、切る時の鋏の音や切り口のざらざらした触覚、梳いたり洗ったりするときの新しい体験をもたらし、さらに外国模倣の便利で衛生的・科学的な評価をもたらした。全（pp.41?48）
73.装いの近代－モダン・ガールの風景－	単	1999年10月	デザイン理論 38／1999	モダンガールの外形的突然変異はその姿に端的に反映された。新しい束髪の七三と耳隠し、断髪。化粧。服装では和装と洋装の両方が変化し、モガ風の装いが完成された。洋装は改良服や袖付や袖山があいまいな擬洋風スタイルや、裾細のオリエンタル・スタイルを逆輸入したものだった。和装はあざやかな色彩とセセッションに代表される外国風を特徴とし、材質はシャルムーズでのような外国風を模したものへ。着装も洋服風を取り入れた。全（pp.80?81）
74.文化の継承と感性	単	1998年10月	武庫川女子大学生活美学研究所紀要 ８号	ものや空間、行動の仕方などには、文化に固有の様式や意味があり、人間－文化の継承と変容の過程で、異和感と葛藤しつつ、取捨選択してきた。国民国家の形成とは別の、感性の共同体が形成されてきたといえよう。全（pp.84?８７）
75.素材の味わいということ－衣生活の近代化の中で－		1998年03月	服飾美学 27号	本稿では毛織物の素材の味わいや効果について取り上げた。近代日本に新素材として取り入れられた毛織物は、その素材感に拘りながらも序々に受容された。その結果、毛織りの肌触りに基づく季節の風物となった側面と、もう一面は新しい西洋風の肉体的表現を和装につけ加えた。（PP.49?66）
76.生活美学の歴史		1997年11月	朝日新聞社「アエラ・ムック」『ファッション学の見方』	生活美学の芽は、日本女子大学校の教科目「家庭芸術」に見ることができると考えた。家庭における芸術鑑賞に関わる内容で、その根はアメリカ合衆国の家政学の考え方に求められ、そのため、ミシガン州立大学をモデルにした、琉球大学家政学部においても開設された。全（pp.132?135）
77.女性と糸機の道－西鶴町人物の記述を中心に－	単	1997年11月	武庫川女性学研究 ２号	西鶴町人物にあらわれた豪奢な服飾の女性と、機織りや縫い物に従事する堅実な女性との二面性を指摘し、それらが社会的に裏や内に位置する女性の立場の反映であり、糸機の道に従事する女性の社会

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				的ヒエラルキーの萠芽となることを指摘。全（pp.33?48）
78.生活美学・生活文化論の視座		1997年07月	日本家政学会家政学原論部会会報31巻	大学の大綱化にともなうカリキュラムの変更のプロセスに現れた、生活美学と生活文化論の視座を探った。その結果、生活美学・生活文化の視座は、家政の本質に根ざすと同時に、時代の要請つまり高度な科学技術の普及した生活に不可欠な視点であることが提案された。全（pp.52?54）
79.服装とは性－「とりかへばや」の変身と解体をめぐって－	単	1997年03月	相川佳予子教授定年退官記念誌『活文化の視座』	「とりかへばや」の変身と解体のプロセスでは、服装において両性具有の理想が実現された。そのことは平安期の貴族に見られる女振りに通じるもので、庶民の芸能者に見られた男女取り替えが嗚呼なる評価を得たのとは異なるものであった。両性具有の理想は天人の神々しさに通じる美しさにあふれたものとされた。全（pp.121?128）
80.生活文化の視座と服飾文化研究－序にかえて－	単	1997年03月	相川佳予子教授定年退官記念誌『生活文化の視座』	大正期に始まった生活文化研究の系譜の中で、服飾文化研究の必然性を位置づけ、今日的な生活文化の視座に対しても、服飾文化研究の立場からの新たな提言の可能性を指摘した。全（pp.93?98）
81.狂言装束の制作	共	1996年03月	武庫川女子大学紀要 人文・社会科学編 43巻	井尻・森田・山本・横川 新しい狂言装束の制作のプロセスを、実際の制作順序に従って詳細に記述している。狂言師、安東伸元氏（大蔵流）の創作「風狂寸劇　男と女の擦れ違い譚」のための装束で、装束は伝統的な厚板の表着の壷折り姿と、現代の舞台衣裳を取り合わせたものである。制作のプロセスでは、厚板という素材の生かされた技法、サイズの特色などが把握できた。（pp.87?94）
82.環境としての装い－主に鏑木清方をめぐって－	単	1994年03月	服飾美学23巻	鏑木清方は、絵と共に関連する多くの文章を残しており、作品に対する視座を知る上で参考になる。大きく二つの視座があり、ひとつは衣服を身近において視覚的・触覚的に眺める場合であり、もう一つは情景の中で眺める場合である。両者はともに、環境に対する関心や価値が、衣服を通して認識されることを示唆する。　（pp.107?122）
83.女性と袴②海老茶式部の形成	単	1993年12月	金蘭短期大学研究誌24巻	明治32年の高等女学校令とともに、袴が女学生の服装として定着しはじめ、新たな展開をはじめる。改良服としての出発から、洋装的なイメージと重なるまでの変様をみせ、流行の波にものるようになる。　（pp.1?31）
84.西洋音楽の受容と服装	単	1993年07月	音楽研究11巻	近代日本における西洋音楽の受容は、明治開化期の幕明けと共にはじまり、それは西洋衣服の受容と機を一にし、受容の仕方にも共通点がみとめられる。演奏スタイルや服装の面から西洋音楽の受容を捉えている。　（pp.79?100）
85.女性と袴①男袴の受容	単	1992年12月	金蘭短期大学研究誌　23巻	明治維新期における和洋の服装の混淆とそれにともなう葛藤は、女装の場合、男袴の受容の過程にみることができる。歴史上はじめて女性が教育制度にのり、それに適する仕掛けとして袴がとりあげられるが、男袴であったため、女装として定着するまでには、様々な紆余曲折を経た。　（pp.1?33）
86.家政学の地平－技術へのこだわりをめぐって－	単	1990年12月	金蘭短期大学研究誌　21巻	家政学の研究は家政の原理・原則について追及することを第一義とするが、技術の問題はどう扱われてきたのか。新制大学における家政学の成立過程、家政学会の研究動向、あるいは家政学原論研究の中で、それを跡づけている。　（pp.177?191）
87.西鶴町人物における服飾（2）	単	1990年12月	風俗（日本風俗史学会誌）　29巻４号	西鶴町人物に登場する服飾は、西鶴が描き出そうとした元禄期の町人生活の様々な条件により必然づけられるが、本稿では西鶴が描き分ける服飾様態の諸相を主として担い手との関係で整理することにより、１つの理解に達している。　（pp.1?24）
88.西鶴町人物における	単	1989年12月	金蘭短期大学研究	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
服飾			誌　20巻	井原西鶴の町人物『日本永代蔵』『世間胸算用』『西鶴織留』を手掛かりとして、この期の町人服飾の全体像を求めた。主として経済的なレベルを基準として、服飾が描き分けられていることが判明した。　(pp.1?25)
89.短大生の生活時間調査報告	共	1987年12月	金蘭短期大学研究誌　18巻	横川、篠原、橋本、北田、松下 短期大学の学生は１日をどう過ごしているのか。24時間の中で短大生活はどの位を占めているのか。平均的な姿を知るため、従来の調査を参考にして短大生の生活時間調査を実施し、検討したものである。　分担横川（pp.133?171）
90.信貴山縁起における服飾	単	1986年12月	金蘭短期大学研究誌　17巻	絵巻における場面展開との関係で服装と着装の仕方を整理することにより、各服装の相対的関係や全体の枠組みを検討する。堂上の世界と下衆の世界及び両方の交わる場のそれぞれに特徴的な服飾現象が見出されることを見通している。（pp.137?158）
91.近代洋装の受容－幕末から明治初年の展開－	単	1986年03月	服飾美学（服飾美学会誌）　15巻	初期における洋装受容は制度的対応により先導されるが、制度はもとより洋装受容への変化を実現する外的条件である。伝統に抗して新たな外来服を取り入れた内面的必然性について、主として制度外の生活における洋装の受容現象に着目して考察している。　(pp.51?63)
92.近代洋装の受容－制度上の対応－	単	1985年02月	服飾美学（服飾美学会誌）　14巻	近代洋装が受容されてきた過程では、在来の衣服とそれに付随する感受性や価値観との間に、様々な葛藤を生じてきた。洋装受容の初期における制度的対応に焦点をあてるとにより、日本の衣服に外来的要素が組み込まれ定着してきた過程をほりおこしている。 （pp.66?85）
93.文明開化の服飾について	単	1984年03月	金蘭短期大学研究誌　14巻	文明開化の洋装は、一般の日本人にとって奇態であったが、同時に新奇な魅力をもつものとして脚光をあびていた。洋装受容をめぐる葛藤を整理し、新文化接触における反応について検討したものである。　(pp.69?89)
94.服飾における文明開化の魁	単	1983年02月	金蘭短期大学研究誌　13巻	幕末期に軍装として採用された洋装は、実用性を発揮するものとして位置付けられ、その表現はできる限り洋装に見えないように工夫される。この洋装をめぐる実用性重視の姿勢は文明開化の合理的精神の発見につながるものとして理解できる。　(pp.1?19)
95.狂言肩衣についての覚え書	単	1981年02月	金蘭短期大学研究誌　11巻	狂言が世話事として演じられた室町時代には、一方で無礼講の文学的遊戯としての連歌が地下人により盛んに詠まれていた。狂言の肩衣文様にみられる意表をつく発想や卑近性は、この無心体の連歌に通ずるものがあると考えられる。　(pp.21?36)
96.服飾における野暮2）元禄町人の生活とのかかわり	単	1980年02月	金蘭短期大学研究誌　10巻	野暮は現実の労働生活をはなれて、遊里という遊びの場をもった元禄町人の生活の中から生まれた。遊びの場では「通」や「粋」が価値をもったが、遊びに徹しないで現実を遊びに持ち込んだのが野暮であった。　(pp.19?43)
97.服飾における野暮1）浮世草子における展開を中心として	単	1979年02月	金蘭短期大学研究誌　９巻	浮世草子を中心に、野暮を意味する言葉の展開をみると、「粋」「しゃれ」「通」と対立する意味を持ち、服飾においては「厭風」「公道」「律儀」等と表現され、遊里では否定的に、現実生活では肯定的にうけとめられている。　(pp.44?56)
98.服飾における倫理と美意識1）町人道にみる有徳と服飾	単	1979年02月	服飾美学（服飾美学会誌）　８巻	近世における町人の倫理のあり方は教訓書や、家訓により知る事ができ、その服装に関する基本的要請は分相応と倹約の思想であった。そのような要請に見合った服装として、衣服の種類、素材、染や織りに一つの傾向が認められ、さらにそこには一種の風趣が認められていた。　(pp.47?62)
99.江戸期服飾における褻の意識－西鶴作品	単	1977年02月	金蘭短期大学研究誌　７、８巻	目に立つ流行やはでな服飾ではなく、底流としての無意識的で私的

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
を中心として－				かつ日常的な服飾が、近世服飾のなかでどのように看取されるかを探る。井原西鶴の作品には、町人が分相応の姿にこだわり、いわば律儀風の服飾を成立させたことがうかがえる。　(pp.17?38)
100.礼書にあらわれた衣生活の規範に関する研究	単	1975年03月	大阪私立短期大学研究報告集11集	元来武士のための、小笠原礼書における衣生活に関する内容としては、季節感と服色の関係、出仕の服装があげられるが、これらが女子用往来物の内容とも共通するところがあり、江戸期を通じての衣生活における「礼儀」のあり方について２、３の知見を得ている。　(pp.131?136)
101.現代短大生気質と家政学における展望	単	1975年02月	金蘭短期大学研究誌　６巻	短大家政科に対して、家庭生活にすぐ役に立つことについて学ぶことを期待し、短大卒業－就職－結婚という生活設計をしている状況が浮かびあがる。これに対して生活の物的条件に対する技術的・自然科学的態度を養うのみならず、社会・人文科学的分野の充実が望まれることを指摘する。　(pp.117?140)
102.既製服時代における被服学の可能性－社会における家政学－	単	1971年02月	金蘭短期大学研究誌　５巻	既製服の生活への浸透が一般化した状況の中で、物つくりを標榜してきた被服学ひいては家政学が、科学として、いかに展望をもちうるのか又もつべきかについて模索する。現実生活の検討により使用者であり、生活者である立場から生活を吟味し、問題提起していくことを提案する。　(pp.71?85)
103.被服材料の応力緩和に関する研究3）織物の応力緩和におよぼす湿度変化の影響	共	1967年12月	奈良女子大学　家政学研究14巻２号	渡辺、加地、丹羽、古里 引張試験機オートロンを使用。所定の条件下で試料に一軸単純引張り変形を与え、応力緩和挙動をとらえた。親水性繊維織物の綿織物では湿度変化の影響が認められたが、疎水性繊維織物のポリエステル織物では影響は顕著でなかった。　分担渡辺（pp.146-154）
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
1.服飾美学の立場ー学会創設の趣旨からー	単	2021年12月19日	国際服飾学会・服飾美学会合同開催　2021年度研究会特別企画「学会活動の意義と課題、研究対象と研究方法」シンポジウム	学会創設時の趣旨や学会誌「服飾美学」における掲載趣旨の経緯を参照しながら、服飾美学会の領域に関する対象と方法について要約し提案する。概要は「国際服飾学会誌No.61」(p.107)に掲載。
2.生活文化としての装いを展示するー普通の暮らしの中の資料が主張することー	単	2021年6月26日	服飾美学会2021年度大会　公開シンポジウム	造形としての服飾を土台としながらも、「かたち」としては残りにくい要素も含む、いわば「装いの文化」の展示のあり方には、どのような可能性があるのか。服飾文化研究は具体的な展示企画に、どのように反映されうるのか、について表題のような提言をする。概要は、「服飾美学第六十八号」のシンポジウム報告「装いの文化を展示する」（pp.60-68）に掲載する。
3.花を着る	単	2014年3月1日	第6回　日本きもの学会年次大会	近現代のキモノの花文様の特徴を抽出し、モチーフ上に、伝統的な吉祥文様に見る中国吉祥文化の反映や洋花を受容しながらも、モチーフの表情や構図に、自然のたたずまいや余白の表現によって、花鳥風月＝Natural Beautyの趣が炙り出せることを指摘する。それは日常を読み込んだ俳句にも共通の美的感受性であることを示唆する。
4.美しさの感性	単	2013年6月28日	繊維学会研究委員会　第39回「感性研究フォーラム」講演会	『The Dynamic Eye in Op Art and Katazome』と『茶釜の歴史と美しさ』をめぐって、パネリストとして参加。
5.考現学からの旅立ち一根にある暮らしを伝えた大村しげー	単	2012年4月	国立民族学博物館	国立民族学博物館における大村しげコレクション調査の成果に関して、今和次郎による考現学調査の延長上に位置づけられるものとして紹介する。
6.　尼崎市社会福祉協議会		2011年06月		色の文化史
7.尼崎市社会福祉協議会		2011年06月		服飾の文様史
8.時代の気分を読む一	単	2008年08月	第17回繊維連合研	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
１．学会ゲストスピーカー				
日常生活からの予兆― 9.都の華‘きもの’に見る感性	単	2007年11月	究発表会 繊維学会 研究委員会「感性研究フォーラム」	
10.心の道具	単	2007年01月	道具学会シンポジウム	21世紀の道具学の視座として心の道具としての衣服について提案する。
11.都市とファッション	単	2006年11月	意匠学会シンポジウム	関西圏の洋装店が、大阪を中心として私鉄沿線に広がることについて提案する。
12.明治期における―女性の技芸修行―故山口ツルさんの洋服雛形・袋物雛形を通して―		2006年04月	中部風俗史学会・衣の民俗館	シンガー裁縫女学院開設当時に、同院でミシン裁縫を学んだ女性の残した裁縫型紙とその雛形資料をめぐって、初期の洋裁修行の実態について述べる。
13.和テイストの色－物語の断絶と可能性―	単	2005年03月	繊維学会研究委員会　第23回感性研究フォーラム	
14.人造繊維【人絹】に見る近代化		2004年10月	日本生活学会　第31回秋季大会シンポジウム	衣と風俗の20世紀をめぐって、人造繊維【人絹】に見る近代化の問題を提案する。
15.生活環境とレーヨンのかかわり	単	2003年05月	日本繊維機械学会　第79回生活環境と繊維の研究会研究例会	戦後の衣生活におけるレイヨンの普及が、国内外にもたらした影響について提案する。
２．学会発表				
1.ミュージアムサロンの春秋	共	2014年10月20日	武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室	科学研究費基盤研究C（課題番号24520929）による成果の一部であり、武庫川女子大学付属総合ミュージアム設置準備室所蔵の中田家コレクションを通して、普通のモノの文化的な意味を探っている。
2.化粧の効果と機能―大正時代の婦人雑誌を手掛かりとして―	共	2010年05月	日本顔学会大会	玉置育子 現代の化粧の礎になった近代の化粧の効果と機能には、現代ではありふれたことになっている、「らしさ」の表現や職場の顔を作る意義がが加えられた。前面からの見え方のみならず、横顔への関心も加えされ、他社からの見え方に関心が拡大している。
3.銘仙にみられる水玉文様	共	2010年05月	日本家政学会大会	小島理沙,武江倫子 近世小袖から認められる日本の水玉文様は、大正・昭和初期に流行した銘仙の多彩な柄の中にも確認できる。丸文を多彩に展開したもので、輪や円、芥子、日、月、星、？などがあるが、大きさや表情が相当するものが水玉文様とされ、表現は多様である。
4.『婦人画報』に見る化粧―襟白粉と額化粧について―	共	2008年10月	日本顔学会大会	野田仁美・横川公子・玉置育子 雑誌「婦人画報」に大正2年4月から昭和8年4月まで掲載された「化粧問答」「お化粧問答」における首筋の化粧と額の化粧に注目した。しかし記事には殆ど登場しないことが判明し、これらの伝統的な化粧が省みられなくなったことと同時に、「婦人画報」の啓蒙的な姿勢が示唆されたものと思われる。
5.『婦人画報』にみる口元へのこだわり	共	2008年10月	日本顔学会大会	玉置育子・横川公子・野田仁美 雑誌「婦人画報」に大正2年4月から昭和8年4月まで掲載された「化粧問答」「お化粧問答」における”口元”へのこだわりに注目した。読者と藤波芙蓉との問答から小さい口元・薄い唇・口臭などへのこだわりのあることが判明した。
6.雑誌『女性』の広告から見る女性の着物について	共	2008年10月	日本家政学会関西支部	武江倫子・横川公子 雑誌「女性」に掲載されたすべての広告に登場する女性の着物を取り上げ、主に着用者と着物の文様について分析した結果、若い女性のみならず、幼児のいる主婦が多く登場し、着衣の文様として割付柄やアールヌーボー風の文様が多いことが示唆された。
7.衣服文様に関する比較文化―水玉文様―	共	2008年08月	第17回繊維連合研究発表会	小嶋理沙・横川公子 衣服に於ける水玉文様の出現について、主にヨーロッパと日本の事例を参照し、その意味の相違について検証する。
8.食玩の効用	単	2008年01月	道具学会研究フォーラム	食玩は、ささやかながらお心づけとして趣向が凝らされ、受容する側もそれを評価する。また内容がわからないために投機的性格を備

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				え、コレクターの射幸心をくすぐる。収集された食玩は、身辺に保持されることで「わたし」が投影されるものとなり、ジオラマの世界に息づいて物語をつむぎだすものとなる。
9.鎌倉期における衣服表象の明証性	単	2005年03月	科研「服飾におけるジェンダーの比較文化的研究」第３回研究報告会	鎌倉期女流文学における衣服の表象するジェンダーの明証性について考察する。
10.机周りのモノから暮らしの型を探る	単	2005年02月	国立民族学博物第４回ゆもか研究会	女子大生１５人を対象として、机周りに収納するモノの悉皆調査とインタビュー調査を実施し、女子大生の自分史と机周りでの暮らしを発掘する。小学校入学以来の自分の居場所としての机周りのくらしが反映する一方、大学入学を機に机自体の持ち方が変化した者があり、収納内容については、２０点?約４５０点までの差異があった。
11.衣服におけるジェンダーの明証性とそれからの開放	単	2004年12月	科研「服飾におけるジェンダーの比較文化的研究」第２回研究報告会	衣服におけるジェンダーの明証性とそれからの開放について、鎌倉初期女流文芸「とりかえばや」を中心に「有明の別れ」等周辺の作品に視野を広げ、衣服によるジェンダーの明証性へのこだわりの定型性とそれゆえに可能な、ジェンダーからの開放について整理する。
12.ジェンダーの拠りどころとしての衣服	単	2004年09月	科研「服飾におけるジェンダーの比較文化的研究」第1回研究報告会	ジェンダーの拠りどころとしての衣服について、鎌倉初期の女流文芸「とりかえばや」を主な手がかりとして、考察する。
13.今年度の研究計画	単	2004年06月	国立民族学博物館共同研究会	『モノに見る生活文化とその時代に関する研究―国立民族学博物館所蔵大村しげコレクションを通して―』の２００４年度計画をめぐって、課題の提案と調査検討の計画について、報告する。
14.戦後50年の能勢調査の推移―峠の会による調査に至るまで―	単	2004年04月	能勢地域調査「峠の会」報告会	能勢地域で実施された戦後の能勢調査報告を参照し、地域の調査者が、どのような関心を地域に持っていたのかを分析した。その結果、地域からの脱皮志向の時代・土地改良と遺構発掘の時代・地域文化保存の関心が出てきた時代、という三方向の関心の時代が見出せた。
15.戦後50年の能勢調査の推移　－峠の会による調査に至るまで－	単	2004年04月	能勢地域調査報告会	戦後50年の能勢調査の推移について、能勢および大阪府内で行なわれた報告書をほぼ全容取り上げ、調査の視座における特徴を分析し、報告した。
16.家具の置き場所・モノの置き場所―鈴木靖峯氏よりのインタビューを中心に―」『	単	2003年12月	国立民族学博物館共同研究会	国立民族学博物館所蔵大村しげコレクションに含まれる、約５万点の生活財の、主な置き場所について、大村しげの晩年における同居者、鈴木氏へのインタビューにより再現する。
17.家具の置き場所・モノの置き場所　－鈴木靖峯氏よりのインタビューを中心に－	単	2003年12月	国立民族学博物館共同研究会	大村しげの住まいにおける家具の置き場所・モノの置き場所について、後半生を近くにいて見守った人物－鈴木氏－から聞書し、大村しげの暮し振りを再現した。
18.大村しげの住まいと大村しげをめぐるひとびと―中間報告のための覚書―」『モノに見る生活文化とその時代に関する研究―	単	2003年10月	国立民族学博物館共同研究会	京都市中京区に６０年余を過ごした大村しげの五軒町家での暮らしぶりを、近隣の住民へのインタビュー調査によって再現する。
19.大村しげの住まいと大村しげをめぐるひとびと	単	2003年10月	国立民族学博物館共同研究会	本能寺（京都市）の借屋である大村しげの住まいを調査し、近隣の人々へのインタビューを併せて実施することで、大村しげの町屋住まいを再現した。
20.14年度の成果と15年	単	2003年06月	国立民族学博物館	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
度の研究計画『モノに見る生活文化とその時代に関する研究　－国立民族学博物館所蔵大村しげコレクション－			共同研究会	”国立民族学博物館所蔵の大村しげコレクションは、不通の生活財12,000点以上で構成される。それらが20世紀を生きた一女性の暮らしのあり方を証言するモノであることに注目し、モノの調査とその背景の踏査を推進する際の方針について、多面的・生活文化学的視座から提案した。”
21.ジェンダーを超える時代の衣裳	単	2003年05月	日本ジェンダー学会　阿国歌舞伎創始400年記念研究会	「風流踊り」の衣装について、近世初期風俗画を参照して、着衣のアイテム・形･色･文様･着用者に注目した。近世初期京都の町衆の隆盛を背景とした、華やかな衣装付きが男女をとおして捉えられた。
22.モデルネと日本の間で－斉藤桂三の服装学－へのコメント	単	2003年01月	服飾美学会	大正期の衣服改良運動の中での服飾デザイン活動を経て、戦中の国民服のデザイン運動に組みこまれつつ、独自のデザイン活動をした斉藤桂三の生涯を概観した。戦後の被服学教育に反映していく、彼のデザイン思想について、コメントする。
23.チベット探検旅行報告	単	2002年09月	道具学会	８月６日?12日までのチベット探検によって、ラサ・チェーダンにおける人々の装いを観察，記録した。きわめて類型的な装いが捉えられ、そこにはチベットの欧米化と対中国との民族的葛藤の反映が如実に見られた。
24.現代日本の縮図としての日本展	単	2002年04月	韓国国立民俗博物館国際シンポジウム	2002年日韓ワールドカップの共同開催を記念し、日本の国立民俗学博物館と韓国の国立民俗博物館が共催で、日本の現代生活文化についての展覧会を開いた。この展示全般を評価し、展覧会の全過程を資料として残すためのシンポジウムに、「近代日本の縮図としての日本展」というテーマで発表したものである。報告集が刊行されている。
25.現代の婚礼における装飾	共	1996年10月	ファッション環境学会	横川・荒井・平松 伝統的な婚礼における室礼は、金屏風・燈明・高砂飾り・衣裳飾りなどがあり、それらは婚礼の場を作る上で不可欠であった。一方現代の婚礼では伝統をひきつぎながらも西洋風の反映や、結婚式産業の進出による様式化が行われた結果、金屏風、ローソク飾り、装花、デコレーションケーキが共通の装飾になった。
26.儀礼環境における伝統と変容－お色直しについて－	共	1996年06月	日本家政学会第48回大会	横川・荒井・平松 お色直しは伝統的な婚礼において見られたが、戦後大きく変容した。明治記念館や玉姫殿系の結婚式業が成立すると共に、披露宴を演出する装置のひとつとして、お色直しが新しいものになった。それと共にお色直しの回数が増え、服種も和洋とりまぜて多彩となり、貸衣装の多様化が一般的となった。
27.生活様式の変容と伝統服飾品－児島の真田紐の場合－	共	1995年05月	日本家政学会	山本・横川 江戸期より素朴な手織りとして伝わった狭幅織である真田紐は、明治期に、児島（岡山県）地方の地場産業の基礎となって発展し、今日までわずかではあるが命脈を保っている。製品は元々の真田紐の多彩な展開として、畳縁や帯子（たいず）など、一時は旧満州にも進出し、生産・販売したが、今日では箱紐などをつくる一社のみになっている。古代の綺や八丈島のかっぺた織も同じ技法の織りで、博多織などとも共通の各地に見られたもの。
28.生活様式の変容と伝統服飾品　－児島の真田紐の場合－	共	1995年05月	日本家政学会第47回大会　（於奈良女子大学）	岡山県児島に真田紐が生産されるようになったのは木綿栽培の普及の時期であったらしい。明治期の児島機業の礎として定着した真田紐は、畳縁・袴司・厚子などに展開し、今では伝統的な箱紐として残存する。このような消長には、生活様式が如実に反映している。
29.まれ人空間としてのホテル　－西洋文化受容のしかけ－	単	1995年03月	生活美学研究所ホテル研究会	明治期のホテルは居留地型からリゾート型やステーションホテル型に移行しながら普及する。一般人にとって、それは日本にいながら異国を思わせる空間であり、まれ人をむかえるための魅力ある場であった。一方、西洋風の文明を集約された世界ともなっており、ダンス会や結婚式をはじめとして日常生活とはかけはなれた風俗が出

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				現した世界となっていた。
30.西鶴町人物の服飾－行事の服飾を中心に－	単	1994年10月	第35回日本風俗学会	西鶴町人物に取り上げられた行事のうち、服飾と関わりをもつのは、大きく二つの面に分けられる。恒例の年中行事に関する項と、臨時の人生上の通過儀礼に関する場合である。具体的には婚礼と葬礼、盆・正月・衣更え・春の花見と秋の紅葉見が主だったものであった。これらは、都市の消費生活の中で実現されたものであり、町並みという考え方も基本にある。ここには行政上の組織や制度とは別に、都市生活のルールやマナーが示唆される。
31.西鶴町人物の服飾－行事の服飾を中心に－	単	1994年10月	日本風俗史学会	西鶴町人物に取り上げられた行事のうち、服飾と関わりをもつのは、大きく二つの面に分けられる。恒例の年中行事に関する項と臨時の人生上の通過儀礼に関する場合である。具体的には婚礼と葬礼、盆・正月・衣更え・春の花見と秋の紅葉見が主だったものであった。これらは、都市の消費生活の中で実現した面が看取され、町並みという考え方には、行政上の組織とは別に、都市生活の形成との関わりが示唆される。
32.環境としての装い－主に鏑木清方をめぐって	単	1993年06月	服飾美学会第３回大会	鏑木清方は、絵とともに関連する多くの文章を残しており、作品に対する視座を知る上で参考になる。大きく二つの視座があり、ひとつは衣服を身近において視覚的・触覚的に眺める場合であり、もう一つは情景の中で眺める場合である。両者はともに、環境に対する関心や価値が、衣服を通して認識されることを示唆する。
33.服飾表現の多様性と社会的機能－元禄期町人服飾の展開から－	単	1991年05月	第64回服飾美学会例会	服飾の共通性や共体の実現は、服飾表現に何らかの類型が捉えられることにより知られる。元禄期の服飾文化を通覧すると、一つの服飾表現が社会的条件の差により別の意味と価値を展開させるという現象があり、服飾表現の社会性を考察する上で興味深い範例となる。
34.近代洋装の受容－風俗画報「風俗画賛」をめぐって－	単	1990年09月	日本家政学会関西支部　研究発表会	風俗画報はその刊行された明治20年代から明治末までの風俗を対象として、文章のみでなく絵図をもって記録しようとしたものであるが、とりわけ「風俗画賛」は和洋・新旧風俗の対立と、変遷を端的に示唆する。当時期にあっては、総体として和風が力を持っていたことが看取される。
35.家政学における技術	単	1990年08月	日本家政学会　家政学原論研究会	家政学原論部会報№１?№23を通覧すると、家政の技術的現象についてしばしば論及している。そこでは日常生活の物つくりとその消費に関わる面、家庭生活の経営・管理に関する面の両面が指摘されているが、それは家政学における技術の理解を示唆するものであろう。
36.西鶴の描いた服飾の諸相	単	1989年10月	第30回日本風俗史学会大会	西鶴は作品の中で登場人物を服装や容姿によって描き分けている。その結果、分限者、律儀に油断なく努力する町人、遊廓に深入りして没落していく町人、衣裳大事を心掛ける町人の女房、その他立場や職業と服装との関わりが把握できる。それらの姿はまた、禁令とも対応するものであった。
37.近世服飾用語のカテゴリー	単	1989年09月	国立民族学博物館共研究会	服装データベース構築のための基礎的研究として、日本における近世服飾史から服飾用語のカテゴリーを、展望することを試みた。あわせて、この場合における服飾分類についても提案した。
38.服飾研究への展望－その多様な可能性を探る－	単	1988年05月	服飾美学会第２回大会シンポジウム	服飾研究の多様な展開をみる中で、全体的展望や総合的視点について改めて検討し、かつ各方面の学問領域において服飾研究への関心が高まりつつある状況で、それらを積極的に取り入れていくための問題提起をすることを目指して、提案と意見交換が行われた。
39.江戸期服飾の諸相－西鶴作品を中心として－	単	1985年10月	第26回日本風俗史学会大会	井原西鶴の「町人物」には、西鶴が表明する致富の思想にのっとった町人生活が細々と描かれるが、服装もそうした町人生活の具体的

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
40.家政学の現状に関する２、３の考察	単	1985年08月	日本家政学会　家政学原論研究会	なあらわれとして描き分けられる。それらは士・農・工・商という封建秩序からの要請とも結び付いて、町人階級にふさわしいあり方として成立していったものと思われる。 家政学原論研究会で積み重ねてきた議論と、現実の家政学教育および研究との間のずれに注目することにより、家政学の体系化における問題点を指摘する。その結果、家政現象を解明する家政学と衣生活事象を対象とする被服学はそれぞれ別の次元から出発すること、家政現象における技術の問題について基本的な関心を持たずにきたこと、家政学が規範的性格を持つと考えられていることについての疑念等を提出した。
41.近代洋装の受容について	単	1984年05月	第51回服飾美学会　研究例会	近代洋装が日本の衣生活に組み込まれていく過程について、制度上の対応と制度外の生活の中での実情を検討することにより、洋装に対する肯定と拒否の葛藤の相を整理提案している。制度上は伝統的服制に替わる正統性を得るが、実生活では実利を旨とした和魂洋才にかなう部分から取り入れられる。
42.家政学を構成する諸分野－総合化、体系化－	単	1979年08月	日本家政学会家政学原論　シンポジウム	家庭着をめぐる物的・効率的な側面と、くつろぎという精神的な充足の側面の両面から、家庭生活をめぐる家政学としての被服学の中心的かつ独自な認識の可能性を示唆することにより、家政学を構成する被服学のあり方を模索・提案する。
43.服飾における倫理と美意識	単	1978年06月	第40回服飾美学会　研究例会	江戸期町人生活における倫理のあり方を、教訓書、女子用往来物、家訓等に求めた。その結果、分相応や倹約や清潔に関する思想が指摘でき、そのことが具体的な服装のあり方に求められることがわかった。それによって、お店風の律儀な味わいがつくられていった。
３．総説				
1.研究の動向59　武庫川女子大学近代衣生活資料ー有形民俗文化財登録までの経緯および当資料活用による研究の可能性ー	単	2021年12月	日本家政学会誌	武庫川女子大学近代衣生活資料は、2019年度に国の登録有形民俗文化財に登録された。その内容と登録までの経緯、当資料活用による研究の可能性について論究する。当資料は、主に近代になって拡大した都市に生活する人々が着用してきた衣類と、それらを作り出す道具類や着装を支える小物類、そうした営為とかかわる教育資料を含み、2518件（9092点）を含む。
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.大学ミュージアムとしての未来ー生活美学研究所との統合に際してー	単	2024年7月11日発行	メールマガジン『カレントウェアネス』483号	2024年5月18日、武庫川女子大学附属総合ミュージアムは、当大学附置研究所である生活美学研究所との統合記念シンポジウムを開催した。本稿では、シンポジウムで行った基調烏煙及びパネルディスカッションの愛用を紹介した。
2.粗品の移り変わり	単	2024年6月1日発行	月刊みんぱく　通巻第561号	粗品は、日用雑貨から飾り物、食品や消耗品までささやかな徴をまとって、時代の移り変わりに応じて変化してきた。武庫川女子大学附属総合ミュージアム所蔵の中田家資料に含まれる粗品（約1800件）からは、伝統的な粗品からプラスチック用品オンパレードの新粗品期へと時代の変化が如実に読み取れる。
3.生活文化としての装いを展示する ー普通の暮らしの中の資料が主張することー	単	2021年6月26日実施シンポジウム	服飾美学会	武庫川女子大学近代衣生活資料の収集とその活用の経緯から、展示によって普通の衣生活を可視化するとはどういうことであったか。「装いを展示する」ことの基本的視座は、展示を通して普通の衣生活を知らしめることを目的とし、そこから炙り出される価値の諸相を具体的な資料の展示と解説、図録によって明示することにあることを開示した。
4.展覧会「武庫女とスポーツ　1939～1970」	共	2021年6月1日から、2021.7.15	武庫川女子大学附属総合ミュージアム	武庫川女子大学は、現在有数のスポーツ隆盛の大学であるが、本展覧会は、女子教育と帯域・スポーツがどうかかわって来たのか、学院創設から現在1970年代までの経緯と成果に焦点を当てて、体育教育や武庫川学院の姿を振り返っている。
5.研究余滴「武庫川女子大学近代衣生活資	単	2021年3月31日刊行	服飾美学　第六十七号	2019年度、「武庫川女子大学近代衣生活資料」が登録有形民俗文化財に登録された。当資料の概要と登録までの経緯について報告す

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
料」の登録有形民俗文化財への登録をめぐって				る。当資料は、普通の人々の和装を中心にした衣生活の資料群であり、衣類とそれを作り出す道具類や着装を支える小物類、教育資料を含む。
6.阪神間モダンライフ	共	2021年2月26日刊行	武庫川女子大学附属総合ミュージアム	大阪道修町の薬種問屋から寄贈された、明治期から第二次世界大戦後までの儀礼用品から日用品までを取り上げて、近代になって形成された阪神間の暮らしに焦点を当て、大きく、伝統とモダンの二つのテーマから炙り出したモダンライフを紹介する図録である。
7.シンポジウム「なぜ普通のモノをしらべるのか」	共	2020年3月16日	武庫川女子大学資料館紀要　13号 武庫川女子大学附属総合ミュージアム	武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室平成30年度秋季展「粗品？粗品！ー時代の空気感を映すー」の企画シンポジウムである。基調講演・市橋芳則、パネリスト、池田治司・佐藤浩司・安藤明人による提案と討論。
8.平成３０年度大阪商業大学商業史博物館シンポジウム「はかりの文化史」	共	2020年3月10日	大阪商業大学商業史博物館紀要　第２０号	大阪商業大学商業史博物館平成３０年度秋季企画展シンポジウム「はかりの文化史」の記録である。吉村英祐・今西正則・土田泰英・池田治司・横川公子による提案と討論による。
9.展覧会「ハレの日のきものー近代の裾文様ー」	単	2019年11月20日	道具学会 News 69　道具学会	武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室主催の秋季展覧会。明治～昭和期の婚礼衣装や大正～昭和初期にかけて登場した訪問着・子供祝い着・装身具などを展示している。
10.シンポジウム「きもの意匠の近代化」	共	2019年10月23日実施	武庫川女子大学附属総合ミュージアム準備室	武庫川女子大学80周年記念事業の一として、同時にかんさい・大学ミュージアム連携の、2019年度文化庁による「地域の博物館を中核としたクラスター形成事業」の一環として開催。「衣と生活」の統一テーマで大学の枠を超えてシンポジウムや展示の一環として実施。
11.ハレの日のきものー近代の裾文様ー	共	2019年9月18日刊行	武庫川女子大学附属総合ミュージアム準備室	裾文様のきものは現在、典型的なハレの日の着物であり、定型的な文様様式の一つである。当館所蔵の着物の中で多くを占めており、一般の人々による選別を経ていることが特徴であり、一般の人々の生活文化的なこだわりが看取できる。展覧会の図録である。
12.見学記　美濃歌舞伎博物館　相生座	単	2019年3月31日	「服飾美学」第６４号　服飾美学会	美濃歌舞伎博物館　相生座として再建された芝居小屋と地歌舞伎衣装の見学と同博物館館長による解説により、地歌舞伎衣装の着付けの特徴と管理保存を中心にまとめている。
13.シンポジウム「はかりの文化史」		2018年11月17日	大阪商業大学商業史博物館	大阪商業大学商業史博物館　平成30年度秋季展企画シンポジウム「はかりの文化史」にパネリストとして参加し、「メートル法の受容ー教育の場における服飾への応用を中心にー」と題して提案。計測に関する広範な視野からの討論に参画する。
14.コラム「メートル法受容の顛末・功罪」	単	2018年10月20日	『はかりの文化史』大阪商業大学商業史博物館	pp.21-22、筆者が中学生時代に経験した、メートル法と地域に伝わっていた経験測に乗っ取った尺貫法とのずれ・葛藤の場面から、メートル法の合理性と限界性について述べる。
15.昭和の暮らしの具体相ー小林孝子卒業論文「考現学より見たる一家庭における服飾資料からー」	単	2018年7月31日	（一社）日本家政学会　服飾史・服飾美学部会会報 No.51	小林孝子卒業論文における、昭和11年における小林家の父母・祖母・本人の服飾資料について、実物の標本カード216枚から、素材・加工や入手の仕方や着用履歴などの関連情報を読み取り、報告する。
16.小林孝子卒業論文「考現学より見たる一家庭の服飾資料」から	単	2018年5月27日	（一社）家政学会　服飾史・服飾美学部会	日本女子大学成瀬記念館所蔵の小林孝子卒業論文「考現学より見たる一家庭の服飾資料」に付された染織標本資料を紹介した。
17.書評　小山直子『フロックコートと羽織袴ー礼装規範の形成と近代日本ー』	単	2017年3月31日	「服飾美学」第６３号　服飾美学会	近代日本が、国家的課題とした西洋化を制度化した礼装の推進は、紆余曲折を経ながら、羽織袴に象徴される伝統的・通念的な礼装規範と相補的な関係を形成したとする著者の見解に対して、いくつかの課題を提言する。
18.ジェフリー・Ｓ・アイリッシュ写真展「土喰の里の春秋」	共	2013年11月15日～11月22日	武庫川女子大学資料館　武庫川女子大学生活美学研究所秋季シンポジウム協賛企画	ジェフリー・Ｓ・アイリッシュ著『幸せに暮らす集落ー鹿児島県土喰集落の人々とともにー』掲載の写真35枚の展覧会を企画・開催。
19.生活文化玉絵t箱シリーズ④花を着るーキモノにたくされた		2013年10月16日～11月27日	武庫川女子大学資料館平成25年度秋季展覧会	武庫川女子大学資料館秋季展覧会「生活文化玉手箱シリーズ④花を着るーキモノにたくされた花鳥風月ー」を企画・開催し、ミュージアムトーク、シンポジウムを併せて実施する。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
花鳥風月ー展				
20.台所環境と台所からの主張	共	2013年10月8日	武庫川女子大学生活美学研究所 平成25年度生活デザイン小研究会	藤原辰史「台所の設計史ー『ナチスのキッチン』をめぐってー」、森ゆかり氏「交流の場としての食空間と高齢者」、横川公子「大村しげの台所の思想」の３者による話題提供とディスカッションによって、台所環境の多様性と台所からの主張について、探求した。
21.百聞ハ一見ニ如カズ―旧制学習院歴史地理標本室移管資料―	共	2013年03月31日	学習院大学史料館編	旧制学習院歴史地理標本室から移管された資料の解説付き図録作成に協力した。
22.色香り街に咲くキモノの華物語ー明治・大正・昭和のお召を「中心にー	単	2012年10月17日	武庫川女子大学出版部	武庫川女子大学史料館秋季展　生活文化シリーズ③として、2012.10.17～11.28に展覧会を開催、おとび図録を発行。
23.共感のちから　無名のちから―明治・大正・昭和を生きた人々の手芸品―	共	2011年10月19日	武庫川女子大学資料館	武庫川女子大学史料館秋季展　生活文化シリーズ②として、2011.10.19～12.2に展覧会を開催、および図録を発行。
24.展覧会「キモノの文字文様に託された世界」	共	2010年10月20日～11月27日	武庫川女子大学資料館	武庫川女子大学資料館　平成22年度秋季展覧会として企画・開催
25.近世初期小袖の特徴と現代和装復権の可能性	単	2010年10月	フォーラム「環境と文化・京都会議２０１０」	ウェルビーイング慶長小袖ルネッサンス　2. として提案する。
26.ブックカバーに転用された包装紙	単	2008年	武庫川女子大学資料館	展示を開設する。1957年～1965年の包装紙を中心に展示・解説する。
27.東アジアにおける洋装化および洋裁文化の形成と葛藤		2008年	武庫川女子大学関西文化研究センター	MKCR国際シンポジウム「東アジア三国における文化交流」のパネラーとして、提案報告と討論に参加する。
28.近世初期小袖の特徴に見る町衆の感性	単	2007年8月	文化庁助成事業「大学と地域との交流・連携の促進」「平成風流踊ルネッサンス」(2007.8~2008.１）市民講座	文化庁助成事業「大学と地域との交流・連携の促進」「平成風流踊ルネッサンス」(2007.8~2008.１）主催の市民講座において、「近世初期小袖の特徴に見る町衆の感性」について講演する。
29.国際シンポジウム併設展覧会「関西洋裁文化玉手箱」	共	2007年	武庫川女子大学関西文化研究センター	文部科学省・私立大学学術研究高度化推進事業　「関西圏の人間文化についての総合的研究」の一環として、国際シンポジウム併設展覧会「関西洋裁文化玉手箱」を開催する。
30.国際シンポジウム「東アジアにおける洋装化と洋裁文化の形成」	共	2007年	武庫川女子大学関西文化研究センター	文部科学省・私立大学学術研究高度化推進事業　「関西圏の人間文化についての総合的研究の一環として国際シンポジウム「東アジアにおける洋装化と洋裁文化の形成」を開催する。報告書『東アジアにおける洋装化と洋裁文化の形成』を出版。
31.関西におけるファッション（衣）文化の形成	共	2007年	武庫川女子大学関西文化研究センター	文部科学省・私立大学学術研究高度化推進事業　「関西圏の人間文化についての総合的研究―文化形成のモチベーション―」、サブプロジェクト「関西におけるファッション（衣）文化の形成」をひきつづき実施
32.展覧会「食玩展―象徴としての生活文化をあやつるもの―」を開催。	共	2007年	生活環境学部生活環境学科・武庫川女子大学資料館の共催	生活環境学部生活環境学科の食玩研究会グループと武庫川女子大学資料館の共催で、サントリー学術助成による調査結果を展示する
33.講演　女学生スタイルの形成－袴を通して－		2006年9月9日	家政学会服飾史・服飾美学部会第2回研究成果公開研究会	武庫川女子大学学術交流館にて、明治初期～大正期の女学生の姿を画報、新聞雑誌、絵画などを資料として洗い出した。賛否両方の批評にさらされながら、男袴の受容から始まって行灯袴の形成にいたる経緯を提案する。
34.展示「明治期における一女性の技芸修業の資料」	単	2006年４月1日～	衣の民俗館	2006年4月1日（土）～15日（土）　明治３８年から約２年間、シンガー裁縫女学院で洋裁をはじめ、和裁、ミシン刺繍、造花などを修業した女性の遺品から、主に女子用洋服の型紙と標本資料を展示する。
35.　2006.7.1　「繊維製品リサイクルモデ		2006年		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
ル研究会」公開研究会を開催した				
36.文部科学省・私立大学学術研究高度化推進事業　「関西圏の人間文化についての総合的研究―文化形成のモチベーション―」、サブプロジェクト「関西におけるファッション（衣）文化の形成」をひきつづき実施		2006年		
37.トヨタ財団研究助成　特定課題「近代化とくらしの再発見」共同プロジェクトとして、大阪府能勢町「峠の会」を組織・支援。さらに引き続き当該財団より、同調査の成果刊行助成に採択され、出版に向けて活動を継続。		2006年		
38.新しい生活美学の芽生え	単	2005年8月25日	産経新聞夕刊文化欄	2005年8月25日産経新聞夕刊文化欄に「新しい生活美学の芽生え」を執筆
39.文部科学省・私立大学学術研究高度化推進事業　「関西圏の人間文化についての総合的研究―文化形成のモチベーション―」、サブプロジェクト「関西におけるファッション（衣）文化の形成」を引き続き、実施。		2005年		
40.トヨタ財団研究助成　特定課題「近代化とくらしの再発見」プロジェクト共同研究者として、地域の調査者を組織し、支援する。		2005年		
41.積水ハウス『ｇｍ』17巻に、「京の生活の智恵に学ぶ暮らしのエコロジー「しまつは贅沢」」の取材原稿 著書、学術論文等の名称 積水ハウス『ｇｍ』17巻に、「京の生活の智恵に学ぶ暮らしのエコロジー「しまつは贅沢」」の取材原稿	単	2005年	積水ハウス『ｇｍ』17巻	「京の生活の智恵に学ぶ暮らしのエコロジー「しまつは贅沢」」の取材原稿
42.トヨタ財団研究助成　特定課題「近代化とくらしの再発見」		2004年		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
プロジェクト共同研究者として、地域の調査者を組織し、支援する。				
43.　文部科学省・私立大学学術研究高度化推進事業　「関西圏の人間文化についての総合的研究―文化形成のモチベーション―」、サブプロジェクト「関西におけるファッション（衣）文化の形成」を実施		2004年		
44.書評　羽生　清著『装うこと生きること－女性たちの近代－』	単	2004年	『デザイン理論』第45号　意匠学会、2004秋	pp.90－93
45.海外調査「韓国東海岸主要都市における生活道具と着衣調査」	共	2003年7月28日から8月2日まで	道具学会	2003年７月28日～８月２日，2003年７月28日?８月２日，
46.書評『平安朝の服飾文化』		2003年	中部風俗史学会紀要14，衣の民俗館	115頁
47.中日比較道具文化研究会中国調査		2002年		
48.染織作家　森口邦彦氏講演から「友禅の美－造形的試行－」	単	2001年	日本家政学会　服飾史服飾美学部会会報　18	染織作家。森口邦彦氏の友禅作品における造形的思考に関して展望する講演の記録を作成。
49.人絹の開発からファッション化まで－人絹素材が繰り広げた世界－	単	1999年	京都工芸繊維大学	科学研究費基盤研究(C)(2)研究成果報告書「生活材料の感性ダイナミックスとその工学的適用」の分担研究。
50.	単	1992年	朝倉書店	被服学辞典執筆分担
51.服飾研究の新しい視座　衣服における音の効果	単	1992年	日本家政学会、服飾史・服飾美学部会報、No.5	
52.	単	1992年	弘文堂	歴史学事典第２巻「からだとくらし」執筆分担
53.	単	1992年	朝倉書店	家政学用語辞典　、執筆分担
54.服装の書（The Book of Costume）Ⅱ	共	1992年	関西衣生活研究会	19世紀の西洋服飾「」を翻訳分担
55.衣服作りの技術をめぐって－生産と創作の間－	単	1992年	衣生活研究17巻６号	
56.	単	1992年	朝倉書店	家政学事典「」を執筆分担
57.服飾美の論理をめざして　〈服飾美学講座⑫〉	単	1992年	衣生活研究16巻６号	
58.生活芸術としての服飾〈服飾美学講座⑨〉	単	1992年	衣生活研究16巻３号	
59.美的体験をめぐって〈服飾美学講座③〉	単	1992年	衣生活研究15巻15号	
60.服飾文化史の視点	単	1992年	衣生活研究11巻１号	
61.衣生活における家庭	単	1992年	衣生活研究６巻	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
生活的なること			９、10合併号	
62.家政学における被服学の模索①被服学と家政学の関わり	単	1992年	衣生活研究５巻５号	
63.絣に関する用語	単	1992年	淡交社	原色染色辞典にて主に絣に関する用語多数執筆分担
６．研究費の取得状況				
1.旧制女子教育機関所蔵「有職人形」を中核とした近代女子教育と皇室文化の研究	共	2021年4月13日交付申請	独立行政法人日本学術振興会	旧制女子高等教育機関に残存する教育標本である「有職人形」が武庫川女子大学附属総合ミュージアムおよび三大学に20体以上伝来する。「有職人形」が近代女子教育において果たした役割に注目し、近代特有の学校教育と皇室文化の関連を検討し、その実態と背景を明らかにする。主に学校教育やその周辺の郷土生活における意義について、研究分担する。
2.科学研究費 基盤研究C　継続	共	2014年	日本学術審議会	モノにみる現代日本の生活文化と歴史の発掘及びその活用ー中田家コレクションをめぐってー
3.科学研究費　基盤研究C　継続	共	2013年	日本学術審議会	モノにみる現代日本の生活文化と歴史の発掘及びその活用ー中田家コレクションをめぐってー
4.科学研究費　基盤研究C　新規	共	2012年	日本学術審議会	モノにみる現代日本の生活文化と歴史の発掘及びその活用ー中田家コレクションをめぐってー
5.科学研究費補助学内奨励金　新規	単	2009年		近代日本における洋裁文化形成に関する資料発掘と整理
6.門倉貿易株式会社研究調査助成金　新規	共	2006年		繊維リサイクルモデル構築のための基礎的研究ー主として生活文化学的視点からの現状の発掘ー
7.科学研究費　基盤研究（Ｂ）　継続	共	2006年	日本学術審議会	暮らしにおけるモノと人との相互的関係に関する生活文化学的研究ー国立民族学博物館所蔵大村しげコレクションをめぐってー
8.サントリー文化財団人文社会科学研究助成　継続	共	2006年		現代日本の生活文化における食玩（おまけ）の位置ー食玩を通してみる時代と生活文化ー
9.科学研究費　基盤研究（Ｂ）　継続	共	2005年	日本学術審議会	暮らしにおけるモノと人との相互的関係に関する生活文化学的研究ー国立民族学博物館所蔵大村しげコレクションをめぐってー
10.サントリー文化財団人文科学･社会科学に関する研究助成　新規	共	2005年		現代日本の生活文化における食玩（おまけ）の位置ー食玩を通してみる時代と生活文化ー
11.国立民族学博物館共同研究　継続	共	2004年		モノに見る生活文化とその時代に関する研究
12.科学研究費　基盤研究（Ｂ）　新規	共	2004年	日本学術審議会	暮らしにおけるモノと人との相互的関係に関する生活文化学的研究
13.国立民族学博物館共同研究　継続	共	2003年		モノに見る生活文化とその時代に関する研究
14.国立民族学博物館共同研究　新規	共	2002年		モノに見る生活文化とその時代に関する研究
15.科学研究費基盤研究C　新規	共	1997年04月01日より３年間		儀礼環境の伝統と変容

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2018年6月～2022年6月	服飾美学会　代表委員
2.2014年01月01日より2014年12月31日	科学研究費委員会専門委員
3.2013年7月3日	神戸市シルバーカレッジ　講師
4.2013年7月2日	NPO法人大阪府高齢者大学校講師
5.2013年01月01日より2013年12月31日	科学研究費委員会専門委員
6.2012年6月	尼崎市社会福祉協議会　講座担当
7.2010年04月01日より2014年03月31日	泉大津市 都市政策部 環境課　貫頭衣デザインコンテスト　　審査委員長
8.2010年4月1日～現在	道具学会　理事　編集委員
9.2010年4月1日～現在	服飾美学会　委員

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
６．研究費の取得状況	
10.2009年01月01日より2009年12月31日	科学研究費委員会専門委員
11.2008年01月01日より2008年12月31日	科学研究費委員会専門委員
12.2005年4月1日～2019年3月31日	繊維学会　感性研究フォーラム　運営委員
13.2004年4月1日～2016年3月31日	意匠学会　編集、各賞選考委員、監査
14.1994年～2014年3月	日本家政学会　服飾史・服飾美学部会　委員　部会長など